

目 次

1. 標準表作成の目的	1
2. 標準表の内容	2
3. 標準表作成の方法	3
3.1. 基準値設定のための調査対象の抽出	3
3.2. 年齢別標準表作成のための基準値	7
3.3. 年齢別身長別標準表作成のための基準値	8
3.4. 標準表の段階区分の設定	8
4. 標準表利用上の注意	18
5. 児童生徒の体位に関する事例	20
5.1. 趣 旨	20
5.2. 調査対象の選定と調査内容	20
5.3. 普通の児童・生徒の事例	22
5.3.1. 身長・体重・胸囲の平均発育と地域性との関係	22
5.3.2. 身長別体重段階の分布の年齢による変化と地域性との関係	30
5.3.3. 身長別胸囲段階の分布の年齢による変化と地域性との関係	33
5.3.4. 身長別体重段階および身長別胸囲段階と栄養指数との関係	35
5.3.5. 個々の生徒の発育事例	37
(1) a 生徒の事例	37
(2) b 生徒の事例	41
(3) c 生徒の事例	42
5.4. 身体虚弱児童の事例	44
5.4.1. 入学前および入学後における主な病気ならびに 年間平均病欠日数	44
5.4.2. 身長・体重・胸囲の平均発育	47
5.4.3. 身長別体重段階・身長別胸囲段階の分布と栄養要注意との関係 ..	49
5.4.4. 個々の児童の発育事例	53
(1) 疲労しやすい児童	53
(2) 結核症の認められる児童	55
(3) 肋膜炎を患った児童	56

6. 標準表	59
6.1. 男子用	59
6.1.1. 年齢別標準表	59
(1) 年齢別身長標準表	
(2) 年齢別体重標準表	
(3) 年齢別胸囲標準表	
(4) 年齢別坐高標準表	
6.1.2. 年齢別身長別標準表	61
(1) 年齢別身長別体重標準表	
(2) 年齢別身長別胸囲標準表	
6.2. 女子用	85
6.2.1. 年齢別標準表	85
(1) 年齢別身長標準表	
(2) 年齢別体重標準表	
(3) 年齢別胸囲標準表	
(4) 年齢別坐高標準表	
6.2.2. 年齢別身長別標準表	87
(1) 年齢別身長別体重標準表	
(2) 年齢別身長別胸囲標準表	
7. 資料(相關表)	111

児童・生徒の体位標準表

(小・中・高校用)

1. 標準表作成の目的

この体位標準表は、本県小・中・高校児童・生徒を対象とし、身長・体重・胸囲・坐高および身長別体重ならびに身長別胸囲等身体の形態的測度について、その発育の標準段階すなわち、ノルム (Norm) を設定したものである。身長・体重・胸囲は生活機能と相当高い相関を示すことがいわれており、身心の健全な発育上重要な意義をもつものである。特にこの時期が精神面の発達とともに、極めて旺盛な身体発育をする年齢段階にあるだけに、常にその発育傾向に留意して健全な発育助長に努めなければならない。そのためには、その発育をみていくための客観的な資料が必要になる。そして、その資料として全県児童・生徒の平均や各郡市の平均等が重要な役割を果たしている。しかし、これだけではまだその発育程度を十分明らかにしていくことはできない。たとえば、身長・体重・胸囲・坐高について、年齢の割に大きい方か小さい方か、その相対的な位置づけや、身長の割に体重がある方かない方か、また、身長の割に胸囲がある方かどうか、ということになると、平均だけでは明らかでない。しかるに身長・体重・胸囲はその相対的位置を知るとともに、身長と体重および胸囲の間には高い相関関係があるので、体重・胸囲はこれを身長と総合的にみていくことによって、一層その発育状況が明らかにされる。この標準表は、このような要請に応えるために設定したもので、これにより、児童・生徒の発育の程度を一層客観的に知ることができると思われる。以下においては、標準表作成の方法と使用上の注意、およびこれを用いての事例と標準表ならびに標準表作成のための資料をかがげた。これらの資料をもとにし、地域の児童・生徒の身体発育を客観的に明らかにするとともに、日常の観察等と考えあわせて、健康増進に資することができれば幸いである。

2. 標準表の内容

この標準表は、小学校から高等学校までの児童・生徒を対象にして男女別に作成されている。年齢区間では6才から17才までのものとなる。また、内容領域では、身長・体重・胸囲・坐高それぞれの発育を単独にみてく年齢別標準表と、身長と体重および身長と胸囲それぞれを総合的にみていく年齢別身長別標準表からできている。前者の年齢別標準表は個人間の比較における相対的位置を明らかにするものであり、後者の年齢別身長別標準表は個人内の身長と体重および胸囲の関係を明らかにするものである。内容を示すと次のようになる。

(1) 年齢別標準表

- (イ) 性別年齢別身長標準表
- (ロ) 性別年齢別体重標準表
- (ハ) 性別年齢別胸囲標準表
- (ニ) 性別年齢別坐高標準表

(2) 年齢別身長別標準表

- (イ) 性別年齢別身長別体重標準表
- (ロ) 性別年齢別身長別胸囲標準表

3. 標準表作成の方法

3.1. 基準値設定のための調査対象の抽出

標準表を作成するための基準値を設定するのに、県統計課昭和31年度学校衛生統計指定校を調査を対象校とした。この学校の抽出は文部省の「昭和31年度学校衛生統計調査の手びき」によって県統計課が行った。層別と本県の抽出率および抽出された調査対象校は次の通りである。

3.1. 表 層別規模基準および抽出率

層別	小 学 校		中 学 校		高 等 学 校 (通常課程)		高 等 学 校 (定時制課程)	
	規模による 区 分	抽出 率	規模による 区 分	抽出 率	規模による 区 分	抽出 率	規模による 区 分	抽出 率
A	500人以下		500人以下		400人以下		250人以下	
B	501~1,000	$\frac{1}{12}$	501~1,000	$\frac{1}{6}$	401~800	$\frac{1}{3}$	251~500	$\frac{1}{3}$
C	1,001~1,500		1,001~1,500		801~1,200		501~750	
D	1,501人以上		1,501人以上		1,201人以上		751人以上	

3.2 表 調 査 対 象 校

【小学校71校 中学校71校 高等学校69校（ただし定時制分校も1校として）】

(一) 小 学 校 (71校)

北蒲原郡	赤坂小学校	早通小学校	村松浜小学校
中蒲原郡	横越小学校		
西蒲原郡	木山小学校	矢作小学校	大曾根小学校
南蒲原郡	田上小学校	中浦小学校	飯田小学校 中通小学校
	中野小学校		
三島郡	高梨小学校	日吉小学校	
北魚沼郡	小出小学校	上条小学校	
南魚沼郡	塩沢小学校	野田小学校	辻又小学校
中魚沼郡	橘小学校	仙田小学校	
刈羽郡	栃ヶ原小学校	山中小学校	結城小学校
	鮎石小学校	北条小学校	中通小学校 北野小学校

	別山小学校			
東 頸 城 郡	沼木小学校	下保倉小学校	室野小学校	旭小学校
中 頸 城 郡	正直小学校	明治小学校	豊芦小学校	原通小学校
	大鹿小学校			
西 頸 城 郡	市振小学校			
岩 船 郡	金丸小学校	金屋小学校	西神納小学校	
佐 渡 郡	金泉小学校	八幡小学校	吉井小学校	松ヶ崎小学校
	後山小学校	畑野小学校	宿根木小学校	大滝小学校
新 潟 市	関屋小学校			
長 岡 市	中沢小学校	栖吉小学校	上組小学校	
高 田 市	大手町小学校			
柏 崎 市	高田小学校			
新 津 市	金津小学校			
小 千 谷 市	大崩小学校			
十日町市	八箇小学校	真田小学校	飛渡第一小学校	下条小学校
村 上 市	村上小学校			
直 江 津 市	高住小学校	春日新田小学校	直江津小学校	
栃 尾 市	来伝小学校	上塩小学校		
新 井 市	堀之内小学校	吉木小学校		
五 泉 市	巢本小学校			

(二) 中 学 校 (71校)

北 蒲 原 郡	原 中 学 校	佐々木中学校		
中 蒲 原 郡	茨首根中学校	小須戸中学校	新関中学校	愛宕中学校
	大江山中学校			
西 蒲 原 郡	赤塚中学校	地藏堂中学校	浦浜中学校	漆山中学校
	味方中学校			
南 蒲 原 郡	鹿峠中学校			
東 蒲 原 郡	津川中学校			
三 島 郡	来迎寺中学校	三島中学校	黒川中学校	
古 志 郡	中野俣中学校	半蔵金中学校		
北 魚 沼 郡	須原中学校	伊米ヶ崎中学校		

南魚沼郡	神立中学校	塩沢中学校	上田中学校	
中魚沼郡	芦ヶ崎中学校	下船渡中学校	倉俣中学校	
刈羽郡	中通中学校			
東頸城郡	奴奈川中学校			
中頸城郡	東妙高中学校	板倉中学校	高土中学校	里五十公野中学校
西頸城郡	木浦中学校	名立中学校	能生中学校	上路中学校
岩船郡	館腰中学校	中俣中学校	八幡中学校	下海府中学校
佐渡郡	真野中学校	赤泊中学校		
新潟市	南浜中学校	濁川中学校		
長岡市	下川西中学校	上川西中学校		
高田市	附属高田中学校			
柏崎市	荒浜中学校			
小千谷市	小千谷中学校			
十日町市	川治中学校	吉田中学校	下条中学校	
村上市	岩船中学校			
直江津市	保倉中学校	直江津中学校		
栃尾市	東谷中学校	下塩谷中学校		
新井市	新井中学校			
五泉市	橋田中学校			
三条市	三条第一中学校			
新発田市	猿橋中学校	川東中学校		
加茂市	下条中学校			
見附市	北谷中学校			
燕市	小池中学校	燕中学校		
両津市	内海府中学校	岩首中学校	水津中学校	加茂中学校

(三) 高等学校 (69校)

(1) 全日制 (23校)

水原高校	中条高校	小出高校	六日町高校
安塚高校	能生水産高校	金沢高校	新潟南高校
第二長岡高校	新発田商工高校	小千谷高校	新井高校
佐渡高校	巻高校	長岡高校	与板高校

三 条 高 校 柏崎常盤高校 加 茂 高 校 沼 垂 高 校
村上桜ヶ丘高校 新発田工業高校 高田女子実業高校

(2) 定 時 制 (46校)

水原高校(中心校, 笹岡分校), 中条高校(中心校), 小出高校
六日町高校塩沢分校, 安塚高校牧分校, 能生水産高校名立分校
金沢高校(中心校), 新潟南高校(中心校, 石山分校), 第二長岡高校(中心校)
新発田商工高校(中心校), 小千谷高校吉谷分校, 新井高校原通分校
加茂農林高校(中心校, 庄瀬分校), 新津高校(中心校, 両川分校, 臼井分校)
巻農業高校(中心校, 内野分校, 黒崎分校) 津川高校西川分校,
西越高校(中心校), 十日町高校(中心校, 田沢分校), 柏崎農業高校(中心
校, 野田分校, 小国分校, 二田分校), 有恒高校, 高田農業高士分校,
村上高校(関谷分校, 高根分校), 佐渡農業高校松ヶ崎分校, 明訓高校,
新潟中央高校(中心校), 北越製紙明星学園, 西新発田高校(中心校)
栃尾高校(中心校, 上北谷分校, 上塩谷分校, 西谷分校), 糸魚川高校(中心
校, 根知分校), 五泉実業高校

調査対象校では全数調査をした。ただし、この報告中には外国人は含まれていない。また、調査対象者の年齢区分は次の通りで、測定は昭和31年4月末に行われた。また、調査票の記入は同年6月上旬に依頼し、7月中旬までに報告された。

3. 3. 表 調 査 対 象 者 の 年 齢 区 分

(昭和31年4月1日現在)

満年齢 (才)	生 年 月 日 の 範 囲	満年齢 (才)	生 年 月 日 の 範 囲
6	昭和24年4月2日～ 昭和25年4月1日	12	昭和18年4月2日～ 昭和19年4月1日
7	23 " 24 "	13	17 " 18 "
8	22 " 23 "	14	16 " 17 "
9	21 " 22 "	15	15 " 16 "
10	20 " 21 "	16	14 " 15 "
11	19 " 20 "	17	13 " 14 "

3.2. 年齢別標準表作成のための基準値

年齢別標準表作成のための基準値は、前節の調査対象校から得られた資料をもとにして、県統計課で算出した全県平均および標準偏差によった。

基準値は3.4表の通りである。

3.4. 表 年齢別標準表作成のための基準値

(イ) 男 子

年 齢(才)	身 長		体 重		胸 囲		坐 高	
	平 均	S.D	平 均	S.D	平 均	S.D	平 均	S.D
	cm	cm	kg	kg	cm	cm	cm	cm
6	110.7	4.5	18.7	2.0	56.3	2.4	62.9	2.7
7	115.9	4.8	20.8	2.2	58.4	2.6	65.3	2.7
8	120.8	4.8	22.8	2.4	60.3	2.6	67.8	2.6
9	125.2	5.1	25.0	2.7	62.3	2.7	69.7	2.8
10	129.6	5.3	27.4	3.1	64.5	3.0	71.6	2.8
11	134.1	5.7	29.9	3.7	66.4	3.2	73.5	3.0
12	139.0	6.5	33.4	4.6	69.0	4.0	75.8	3.6
13	145.5	7.8	37.9	6.0	72.2	4.6	78.2	4.0
14	151.8	7.6	43.3	6.6	76.0	4.9	82.3	4.4
15	158.5	6.6	49.7	6.6	79.9	4.7	86.3	4.0
16	161.4	5.9	53.0	6.0	82.5	4.4	88.0	3.4
17	163.1	5.6	55.5	5.9	84.2	4.2	89.2	3.2

(ロ) 女 子

年 齢(才)	身 長		体 重		胸 囲		坐 高	
	平 均	S.D	平 均	S.D	平 均	S.D	平 均	S.D
	cm	cm	kg	kg	cm	cm	cm	cm
6	109.6	4.4	18.0	2.0	54.7	2.4	62.3	2.6
7	114.9	4.6	20.0	2.2	56.5	2.5	64.9	2.7
8	120.0	5.0	22.2	2.6	58.5	2.7	67.3	2.7
9	124.4	5.3	24.4	3.0	60.5	3.0	69.3	2.9
10	129.8	5.9	27.3	3.6	63.0	3.3	71.7	3.2
11	135.4	6.6	31.0	5.5	66.3	4.2	74.5	3.6
12	140.8	6.7	35.2	5.9	69.7	4.8	77.5	3.9
13	145.6	6.1	39.9	5.8	73.4	5.0	80.1	3.6
14	148.7	5.3	44.1	5.7	76.4	4.8	82.2	3.2
15	151.3	4.9	47.3	5.6	78.6	4.5	83.5	2.7
16	152.1	4.7	49.5	5.5	80.2	4.5	84.2	2.6
17	152.7	4.7	50.5	5.3	81.1	4.3	84.1	2.6

この基準値をもとにして 3.6 表における標準段階の区分に従って年齢別標準表が作成された。

3.3. 年齢別身長別標準表作成のための基準値

年齢別身長別標準表作成のための基準値を算出するのに 3.2 表における調査対象校について、学校における身体測定の結果をもとにして手引に従って性別年齢別に身長と体重および身長と胸囲の相関表作成を依頼した。この相関表を全県で集計して全県の相関表を作成した。全県の相関表は、7 章資料にかかげる通りである。ただし、この相関表の計量区分は、文部省統計の区分に従って、身長・胸囲・坐高は 1 cm 区分、体重は 1 kg 区分とし、整数部分が同じものは小数点以下の数字のいかににかかわらず同一区分に記入してある。たとえば、身長 105cm は 105.0cm から 105.9cm までを含んでいる。次に、この相関表をもとにして、各身長に対応する体重および胸囲の分布の平均と標準偏差を算出して、年齢別身長別標準表の基準値とした。基準値は 3.5 表の通りである。ただし、3.5 表では、相関表において身長に対応する被検者の数が少ないところは省略した。表中で括弧のない数は平均、括弧内の数は標準偏差を示す。

3.3. 標準表の段階区分の設定

以上によって、年齢別標準表および年齢別身長別標準表作成のための基準値が算出されたので 3.6 表の標準表の段階区分に従って標準表を作成した。(注)

3.6 表では平均以上および以下における 1 標準偏差の範囲のものをすべて標準段階とし、その他大小の区分はのをもとにして設定されている。また、ここでは標準段階を普通と記した。いま分布が正規分布に近いと、統計的に標準段階に入る者は凡そ全体の 3/4、甚大、または甚小に入る者はそれぞれ凡そ 2.5% 程度になる。ただし、年齢別身長別標準表では身長の増加に従って体重や胸囲が必ずしも増加していないところが若干みられたので標準表の作成にあたって、そのような点では移動平均法で修正した修正値を用いた。標準表は 6 章にかかげる通りである。

3. 5. 表 標準表の段階区分

甚 大	大		普 通			小		甚 小
	大	稍大	上限	平均	下限	稍小	小	
+2 σ より大	+2 σ	+1.5 σ	+1 σ	M	-1 σ	-1.5 σ	-2 σ	-2 σ より小

(注) +1 σ , +2 σ 等はそれぞれM+1 σ , M+2 σ 等を表わす。

(注) 体力測定(吉田章信著) 身長別体重「ノルム」参照
 学徒体力標準表(吉田章信著)参照

3.5 表 年齢別身長別標準表作成のための基準値

(1) 年齢別身長別平均体重

身長	年齢	6 才	7 才	8 才	9 才	10 才	11 才
	cm	kg					
99		14.8(0.7)					
100		15.6(/.0)					
1		15.9(/.3)					
2		15.8(/.1)					
3		16.3(/.0)					
4		16.7(/.1)					
5		16.8(/.1)	17.3(/.6)				
6		17.3(/.1)	18.1(/.7)				
7		17.6(/.3)	18.1(/.6)				
8		18.1(/.2)	18.5(/.3)				
9		18.3(/.2)	18.2(/.6)				
110		18.5(/.1)	18.8(/.3)	19.2(2.2)			
1		18.9(/.2)	19.2(/.3)	19.5(/.5)			
2		19.2(/.5)	19.5(/.3)	20.0(/.8)			
3		19.6(/.4)	19.8(/.3)	20.1(/.3)	20.7(2.8)		
4		19.8(/.3)	20.2(/.2)	20.3(/.6)	21.2(/.2)		
5		20.2(/.2)	20.4(/.3)	20.9(/.5)	20.2(/.4)		
6		20.5(/.2)	20.9(/.4)	21.3(/.5)	21.5(/.4)		
7		20.8(/.5)	21.4(/.5)	21.4(/.4)	21.4(/.5)		
8		21.2(/.6)	21.7(/.4)	21.9(/.5)	22.2(/.3)	22.8(/.1)	
9		21.2(/.2)	21.8(/.3)	22.1(/.5)	22.7(/.3)	23.3(/.7)	
120		21.8(/.1)	22.7(/.6)	22.8(/.4)	22.9(/.5)	23.7(2.1)	
1		22.3(/.4)	22.8(/.5)	23.2(/.7)	23.4(/.5)	23.7(/.5)	24.6(/.9)
2			23.2(/.9)	23.5(/.5)	23.9(/.4)	24.7(/.7)	24.7(2.4)
3			23.7(2.0)	23.7(/.5)	24.2(/.9)	24.5(/.5)	25.0(2.1)
4			23.3(/.4)	24.3(/.6)	24.6(/.4)	24.9(/.4)	25.1(/.9)
5			24.0(/.6)	24.6(/.8)	25.1(/.7)	25.7(/.9)	25.7(2.7)
6			24.3(/.9)	24.9(/.6)	25.4(/.6)	26.1(/.7)	26.7(/.7)
7			24.9(2.0)	25.5(/.8)	26.0(2.0)	26.5(/.8)	26.9(/.8)
8			26.0(/.1)	25.9(2.0)	26.1(/.8)	26.8(/.8)	27.1(/.7)
9				26.1(2.0)	26.6(/.8)	27.0(/.7)	27.6(2.0)
130				26.5(/.9)	27.7(/.8)	27.5(/.9)	27.8(2.0)
1				27.3(2.6)	27.7(/.7)	27.9(/.8)	28.3(/.8)
2					28.1(/.9)	28.5(/.8)	29.0(/.7)
3					28.7(2.2)	29.0(/.8)	29.5(2.3)
4					29.5(2.3)	29.6(2.2)	30.0(2.1)
5					29.5(/.9)	29.9(/.7)	30.7(/.9)
6					29.7(2.8)	30.3(2.0)	31.9(2.4)
7					30.9(3.1)	30.9(/.8)	31.5(2.1)
8						31.8(3.5)	32.3(2.7)
9						32.1(2.2)	33.1(2.8)
140						32.8(2.3)	33.5(2.5)
1							33.9(2.1)
2							33.9(2.5)
3							33.7(2.7)
4							34.9(/.7)
5							35.5(2.0)
6							37.0(2.5)

(注) たとえば身長欄 112cmは112.0cm~112.9cm をあらわす。また、括弧のな

および標準偏差 (男子)

身長	年齢	12 才	13 才	14 才	15 才	16 才	17 才
	cm	kg					
124		26.5(1.6)					
5		26.6(1.6)					
6		27.3(1.6)					
7		27.4(1.6)	27.6(1.0)				
8		27.9(2.2)	27.9(2.1)				
9		28.3(2.4)	28.7(1.7)				
130		28.9(2.4)	29.0(2.0)				
1		29.2(2.2)	29.8(2.3)				
2		29.7(2.2)	30.1(2.1)	29.7(3.5)			
3		30.3(2.4)	30.3(2.6)	31.3(3.9)			
4		30.9(2.3)	31.3(2.4)	31.8(3.0)			
5		31.0(2.0)	31.7(2.7)	32.4(2.1)			
6		31.5(2.0)	32.1(2.4)	32.8(3.0)			
7		32.3(2.2)	32.8(2.4)	32.9(2.5)			
8		33.0(2.5)	33.2(2.5)	33.8(2.6)			
9		33.5(2.5)	33.7(2.8)	34.6(2.6)			
140		34.0(2.5)	34.7(2.7)	35.0(2.5)	34.7(3.8)		
1		34.8(2.7)	35.0(2.6)	35.6(2.8)	35.9(2.8)		
2		35.0(2.6)	35.4(2.6)	36.0(2.8)	36.0(2.4)		
3		35.9(2.5)	36.2(2.6)	36.8(3.1)	37.6(2.7)		
4		36.1(2.6)	36.9(2.8)	37.6(3.3)	39.6(3.8)		
5		36.9(3.3)	37.4(3.0)	38.3(3.0)	38.7(2.8)		
6		37.9(3.0)	38.8(2.7)	38.9(2.8)	40.1(2.9)		
7		38.8(3.3)	39.2(2.9)	40.1(2.9)	40.3(3.4)	43.4(4.1)	
8		39.4(2.9)	39.7(2.7)	40.2(3.3)	41.6(4.2)	43.2(4.0)	
9		39.3(2.8)	41.0(2.9)	41.4(3.5)	43.2(3.4)	44.6(3.6)	
150		40.5(3.5)	41.3(3.2)	42.2(3.3)	43.5(4.0)	44.8(2.7)	46.6(4.2)
1		41.5(4.3)	42.6(3.2)	43.1(3.1)	44.4(3.5)	45.4(3.3)	48.6(4.3)
2		42.1(3.1)	42.4(3.0)	43.9(3.5)	44.8(3.5)	46.7(4.4)	48.7(2.9)
3		42.0(2.3)	43.2(3.1)	44.2(3.5)	45.7(4.4)	46.7(3.8)	48.7(3.6)
4		43.5(2.5)	43.8(2.9)	45.2(3.5)	46.0(3.7)	48.2(4.1)	49.0(3.5)
5		45.5(3.7)	45.2(3.5)	45.8(3.6)	47.3(3.7)	48.7(3.7)	49.9(3.6)
6		46.0(3.6)	45.9(4.0)	47.0(3.8)	48.8(4.3)	49.8(4.3)	51.1(4.3)
7		45.7(3.0)	46.8(3.8)	47.7(3.4)	48.8(3.8)	50.3(4.2)	52.0(4.1)
8			47.3(4.3)	48.6(3.8)	50.2(4.4)	51.6(4.2)	52.4(3.8)
9			48.6(3.0)	49.3(3.8)	50.8(4.3)	51.6(4.3)	53.5(4.3)
160			50.0(3.8)	50.0(3.4)	51.3(4.1)	52.5(4.3)	53.7(4.4)
1			50.2(4.3)	50.8(3.7)	51.9(4.3)	53.4(4.2)	53.9(4.0)
2			49.9(3.9)	51.9(4.3)	53.1(4.4)	54.3(4.1)	55.8(4.4)
3			52.4(5.3)	52.6(4.5)	54.9(4.3)	54.3(4.4)	55.6(4.3)
4				52.9(4.2)	54.4(4.7)	55.6(4.8)	55.9(4.0)
5				53.8(4.9)	54.3(4.1)	55.7(4.7)	56.8(4.5)
6				55.1(3.8)	55.2(4.6)	56.0(4.3)	57.7(4.9)
7				55.0(3.7)	56.1(4.8)	57.0(4.7)	58.3(5.3)
8				56.4(4.7)	57.4(5.3)	57.9(5.0)	59.0(4.8)
9				57.1(4.0)	57.7(4.1)	57.7(5.0)	60.1(5.6)
170					58.4(5.1)	58.5(4.1)	60.4(5.0)
1					58.8(3.9)	59.9(5.2)	61.5(5.0)
2					59.0(4.6)	60.7(4.8)	61.8(5.2)
3						58.7(3.5)	62.5(5.1)
4						62.2(4.3)	61.5(5.8)
5						62.7(3.7)	64.7(5.9)
6							66.7(7.0)

い数値は平均体重、括弧内は標準偏差を示す。

(2) 年 齡 別 身 長 別 平 均 胸 围

身長 \ 年齢	6 才	7 才	8 才	9 才	10 才	11 才
cm	cm					
99	52.3(2.0)					
100	53.8(1.8)					
1	54.3(2.1)					
2	53.7(2.3)					
3	54.4(2.7)					
4	54.9(2.2)					
5	55.1(2.3)	55.4(1.7)				
6	55.4(2.2)	55.0(1.9)				
7	55.5(2.5)	56.2(2.0)				
8	55.9(2.0)	56.7(2.1)				
9	56.2(2.2)	56.3(1.6)				
110	56.2(2.2)	57.1(2.2)	57.5(2.2)			
1	56.4(2.0)	57.3(2.3)	58.0(1.8)			
2	56.9(2.3)	57.5(2.1)	58.4(2.3)			
3	56.9(1.9)	57.7(2.3)	58.4(1.9)	59.4(1.8)		
4	57.2(2.0)	58.0(2.0)	58.3(2.3)	60.1(3.0)		
5	57.7(2.1)	58.1(2.3)	59.2(2.3)	59.3(2.5)		
6	57.8(2.1)	58.5(2.1)	59.3(2.2)	60.2(2.5)		
7	58.2(2.5)	59.1(2.0)	59.2(2.2)	60.1(1.7)		
8	58.8(2.3)	59.1(2.2)	59.8(2.1)	60.4(2.2)	61.5(2.3)	
9	59.6(2.4)	59.1(2.2)	60.1(2.1)	61.1(1.7)	61.9(2.4)	
120	58.5(2.2)	59.7(2.2)	60.6(2.2)	61.3(2.5)	62.4(2.2)	
1	59.4(1.7)	59.7(2.1)	60.4(2.0)	61.5(2.5)	61.3(2.3)	61.8(2.8)
2	59.6(1.9)	59.9(2.2)	61.0(2.1)	61.7(2.4)	62.5(3.2)	62.5(3.1)
3		60.1(2.7)	60.9(2.4)	62.0(2.7)	62.5(2.8)	63.1(3.0)
4		60.5(2.0)	61.5(2.2)	62.5(2.8)	62.4(2.1)	63.5(2.5)
5		60.8(2.0)	61.7(2.6)	62.4(2.5)	63.8(2.4)	63.9(2.9)
6		60.8(1.6)	61.8(2.3)	62.9(2.4)	63.4(2.3)	64.3(2.6)
7		62.1(1.7)	62.1(2.3)	63.2(2.7)	64.0(1.9)	64.5(2.3)
8		61.7(2.4)	62.0(2.9)	63.4(2.6)	63.9(2.4)	64.9(2.5)
9			62.0(1.9)	63.5(3.0)	64.2(2.4)	65.1(2.9)
130			62.9(2.3)	64.0(2.8)	64.6(2.7)	65.1(2.4)
1			63.2(2.3)	64.2(2.9)	65.0(2.5)	65.7(2.8)
2				64.5(2.3)	65.1(2.0)	65.9(2.3)
3				64.5(2.8)	65.8(2.3)	66.3(2.7)
4				64.9(2.8)	66.0(2.5)	66.5(2.8)
5				64.5(2.6)	66.1(2.1)	67.1(2.4)
6				65.9(3.8)	66.0(2.4)	67.2(2.8)
7				66.3(3.0)	66.9(2.6)	67.3(2.6)
8					67.7(4.8)	67.5(2.7)
9					67.1(3.1)	68.7(3.3)
140					67.3(2.2)	68.5(3.4)
1						68.7(2.7)
2						69.6(2.4)
3						68.9(3.8)
4						68.5(4.0)
5						71.0(3.7)
6						71.2(4.0)

および標準偏差 (男子)

身長	年齢	12 才	13 才	14 才	15 才	16 才	17 才
	cm	cm					
124		63.9(3.4)					
5		65.0(2.9)					
6		65.1(3.0)					
7		65.2(2.7)	66.2(1.8)				
8		65.3(2.5)	65.2(3.2)				
9		65.6(2.5)	66.0(2.3)				
130		66.5(2.2)	65.9(2.5)				
1		66.3(3.0)	66.5(2.6)				
2		66.3(2.5)	67.0(2.5)	67.7(3.2)			
3		66.9(3.0)	66.9(2.7)	69.0(3.4)			
4		67.1(3.1)	68.4(2.7)	67.6(3.5)			
5		67.4(2.6)	68.1(2.5)	69.5(3.3)			
6		67.7(3.1)	68.3(3.0)	69.4(2.2)			
7		67.9(3.0)	69.1(2.8)	69.4(3.3)			
8		68.5(3.0)	69.7(2.9)	71.0(3.1)			
9		68.8(2.9)	70.0(3.1)	71.1(2.9)			
140		69.5(2.8)	70.4(2.9)	70.9(3.2)	71.6(3.2)		
1		69.7(2.8)	70.7(3.0)	70.9(3.0)	71.3(3.2)		
2		69.6(2.9)	70.7(3.2)	71.6(3.4)	73.8(3.5)		
3		70.1(3.2)	71.5(3.0)	71.9(3.2)	72.7(3.0)		
4		70.3(2.9)	71.5(3.0)	72.6(3.3)	75.5(3.6)		
5		70.8(2.8)	71.6(3.3)	73.2(3.3)	73.1(3.3)	76.5(4.2)	
6		71.6(3.1)	73.0(3.1)	73.6(3.3)	74.1(3.7)	78.0(5.0)	
7		71.6(4.1)	72.6(3.3)	74.8(3.1)	75.4(4.3)	76.3(4.0)	
8		72.1(2.9)	73.5(3.2)	73.9(3.4)	75.8(4.4)	77.0(4.1)	
9		73.0(2.9)	74.5(3.1)	75.0(3.1)	76.5(3.9)	78.5(3.2)	
150		72.4(3.3)	74.3(3.5)	75.6(3.7)	76.8(4.0)	78.1(3.0)	81.9(3.9)
1		73.6(3.9)	75.1(3.3)	76.2(3.4)	77.2(4.0)	79.0(3.5)	81.4(3.8)
2		73.9(3.4)	74.7(3.4)	76.7(3.7)	77.4(3.4)	79.6(3.7)	81.1(3.5)
3		74.8(2.5)	75.7(3.1)	77.1(3.6)	77.9(4.0)	79.8(4.2)	82.3(3.6)
4		75.2(3.4)	76.0(3.5)	77.4(3.9)	77.9(3.8)	79.9(3.9)	81.3(3.7)
5		76.4(3.9)	77.4(2.9)	78.2(4.1)	79.0(3.1)	80.3(4.1)	82.0(4.1)
6		76.4(3.4)	77.4(3.8)	78.6(3.6)	79.8(4.0)	81.1(4.0)	82.4(5.0)
7		76.4(2.0)	78.2(3.5)	78.9(3.2)	79.7(4.0)	81.5(4.1)	82.7(3.9)
8			78.0(3.8)	79.2(4.0)	79.9(4.1)	81.9(4.0)	82.5(3.6)
9			79.1(3.3)	79.9(3.8)	80.5(4.2)	82.1(3.6)	83.9(3.6)
160			79.5(3.8)	80.0(3.7)	81.3(3.6)	82.0(3.8)	83.6(3.7)
1			79.1(3.4)	79.6(3.8)	81.0(3.6)	82.6(3.8)	83.2(3.6)
2			80.0(4.4)	81.2(4.4)	81.8(3.6)	83.4(3.7)	84.2(3.8)
3			80.2(4.2)	80.0(3.4)	82.1(3.8)	83.0(3.8)	84.1(3.6)
4			79.9(5.3)	81.4(3.7)	82.2(3.7)	83.4(3.8)	84.3(3.5)
5			80.0(2.7)	82.0(3.9)	81.6(3.5)	84.0(3.9)	84.9(3.9)
6				82.7(3.6)	83.0(4.1)	84.2(3.9)	85.5(4.0)
7				82.0(3.0)	82.6(4.2)	84.5(4.1)	85.5(4.0)
8				84.1(3.7)	83.3(3.8)	84.7(3.7)	85.7(4.3)
9				85.1(3.8)	83.9(3.9)	84.9(3.9)	86.7(3.8)
170					83.9(3.7)	85.0(2.9)	86.5(4.1)
1					85.0(4.0)	85.5(4.0)	86.8(3.4)
2					84.6(3.3)	85.5(4.0)	87.1(5.0)
3					86.3(4.0)	84.1(3.4)	87.2(5.1)
4						87.1(3.4)	86.8(5.3)
5						86.0(2.8)	88.3(2.7)
6							89.0(5.1)

(3) 年齢別身長別平均体重

身長	年齢	6 才	7 才	8 才	9 才	10 才	11 才
	cm	kg					
99		14.5(0.7)					
100		15.5(/.2)					
1		15.7(/.2)					
2		15.7(/.4)					
3		16.0(/.1)					
4		16.4(/.2)	17.0(/.4)				
5		16.9(/.0)	17.0(/.6)				
6		17.0(/.3)	17.1(/.4)				
7		17.4(/.3)	17.5(/.4)				
8		17.7(/.2)	17.8(/.3)				
9		18.0(/.2)	18.1(/.4)				
110		18.3(/.4)	18.4(/.2)	18.4(/.7)			
1		18.8(/.2)	18.7(/.3)	19.0(/.3)			
2		18.8(/.4)	19.2(/.5)	19.5(/.7)			
3		19.3(/.2)	19.5(/.4)	19.8(/.6)	20.2(/.8)		
4		19.5(/.6)	20.0(/.3)	20.4(/.5)	20.9(/.7)		
5		20.1(/.5)	20.2(/.5)	20.6(/.5)	20.5(/.2)		
6		20.2(/.3)	20.4(/.4)	20.9(/.5)	21.1(/.5)		
7		20.4(/.7)	21.1(/.4)	21.2(/.5)	21.3(/.3)		
8		21.0(/.6)	21.1(/.6)	21.4(/.4)	21.8(/.5)	22.9(/.6)	
9		22.7(/.4)	21.6(/.7)	21.9(/.4)	22.8(/.4)	22.8(2.0)	
120		21.6(/.1)	21.8(/.5)	22.4(/.5)	22.8(/.7)	23.0(/.7)	
1			22.3(/.6)	22.6(/.7)	23.2(/.7)	23.5(/.7)	
2			22.8(/.6)	22.9(/.6)	23.5(/.6)	24.4(/.7)	23.8(/.6)
3			23.2(/.7)	23.6(/.6)	23.9(/.7)	24.6(/.9)	24.4(/.6)
4			24.4(/.8)	24.1(/.6)	24.2(/.7)	24.8(/.9)	25.1(/.8)
5			23.5(/.7)	24.4(/.6)	24.7(/.8)	25.2(/.7)	25.7(/.5)
6			25.2(/.7)	25.3(2.1)	25.0(/.7)	25.5(/.6)	26.2(/.8)
7				25.2(/.8)	25.5(/.9)	26.2(/.9)	26.1(/.9)
8				25.8(/.8)	26.4(2.0)	26.3(/.8)	27.1(2.3)
9				26.0(2.3)	26.7(/.9)	26.9(2.1)	27.5(2.0)
130				26.8(/.9)	26.9(2.0)	27.3(2.2)	28.1(/.9)
1				27.3(/.9)	28.0(2.6)	28.4(/.9)	28.2(/.9)
2					28.9(2.1)	28.7(2.0)	28.9(2.1)
3					28.5(2.8)	29.0(2.2)	29.7(2.0)
4					28.9(/.6)	29.4(2.4)	30.1(2.9)
5					29.0(2.0)	30.4(2.6)	30.5(2.6)
6					29.7(2.1)	29.8(2.4)	31.4(2.5)
7						30.3(2.2)	31.7(2.8)
8						31.9(2.9)	32.2(2.5)
9						32.1(2.3)	32.8(2.4)
140						30.4(2.1)	33.8(3.1)
1							33.8(2.5)
2							35.0(3.2)
3							36.0(3.2)
4							36.1(2.9)
5							36.9(3.9)
6							36.9(2.3)
7							38.7(3.8)
8							39.1(3.6)
9							40.3(5.6)

および標準偏差(女子)

身長	年齢	12才	13才	14才	15才	16才	17才
	cm	kg					
123		25.2(1.8)					
4		26.9(2.4)					
5		25.1(1.7)					
6		26.7(1.8)					
7		27.5(2.2)					
8		28.0(2.3)					
9		28.6(2.7)					
130		28.5(2.1)	29.1(3.4)				
1		29.6(2.8)	31.1(4.2)				
2		30.2(2.8)	30.2(3.5)				
3		30.4(2.8)	31.8(4.3)				
4		31.1(2.6)	31.5(3.4)	33.7(3.3)			
5		31.1(2.7)	32.2(3.4)	34.5(4.7)			
6		32.2(2.9)	33.5(4.5)	35.1(5.2)			
7		32.8(2.8)	33.5(3.3)	36.0(3.8)			
8		33.5(3.0)	34.6(3.4)	37.2(3.5)	40.1(3.0)		
9		33.8(2.8)	34.8(3.4)	37.5(4.7)	39.0(3.4)		
140		34.9(3.0)	35.9(3.6)	38.8(4.6)	39.8(3.1)	40.1(5.1)	
1		36.9(3.3)	37.1(3.4)	38.3(4.0)	41.0(3.5)	42.9(3.1)	43.5(4.0)
2		36.3(3.2)	37.9(3.6)	40.1(4.5)	41.1(4.0)	45.3(4.1)	42.7(5.2)
3		37.0(3.0)	38.8(3.9)	40.9(4.2)	41.8(4.0)	43.9(5.2)	45.1(3.7)
4		37.7(3.3)	39.4(4.0)	41.5(4.2)	43.2(4.4)	44.2(4.0)	46.1(3.9)
5		38.4(3.5)	40.0(3.9)	41.8(4.5)	43.6(4.8)	45.1(3.6)	45.8(4.8)
6		39.1(3.7)	40.7(4.1)	42.9(4.3)	44.9(4.5)	45.9(3.9)	46.7(4.1)
7		39.9(3.7)	41.3(3.9)	43.3(4.4)	45.0(4.4)	46.5(4.4)	47.5(4.1)
8		40.6(3.6)	42.4(4.2)	44.0(4.8)	45.4(4.8)	47.9(4.6)	48.3(5.0)
9		41.9(3.7)	42.7(3.9)	44.7(4.7)	46.0(4.7)	47.7(4.7)	48.1(4.6)
150		42.5(3.8)	43.3(4.2)	45.2(4.5)	47.1(4.8)	49.1(5.1)	49.1(4.2)
1		42.5(3.8)	44.4(4.2)	45.8(4.5)	47.4(4.7)	48.9(4.6)	49.8(4.4)
2		43.4(3.8)	45.7(4.0)	46.7(4.3)	48.3(4.8)	49.0(4.7)	50.2(4.6)
3		44.4(4.1)	45.5(4.6)	47.1(4.6)	48.9(4.8)	50.8(5.2)	50.8(4.3)
4		45.5(5.2)	46.2(4.7)	47.1(4.6)	49.1(4.8)	50.9(4.9)	51.7(4.7)
5		46.0(3.0)	47.9(4.6)	49.1(4.5)	50.1(4.7)	51.4(4.7)	51.9(4.5)
6			48.4(4.3)	48.9(4.3)	49.9(4.9)	51.3(4.6)	52.5(4.9)
7			47.1(4.5)	49.7(4.4)	50.9(4.5)	51.9(4.8)	53.3(5.4)
8			49.4(4.7)	50.8(4.8)	51.4(5.0)	52.6(4.8)	53.2(5.4)
9			49.4(4.0)	50.9(4.8)	50.9(4.3)	53.8(5.0)	54.5(5.1)
160				52.7(4.8)	53.1(5.3)	53.9(5.1)	54.7(4.8)
1				52.3(5.2)	53.8(4.7)	56.1(4.3)	56.2(5.2)
2					54.4(4.9)	55.9(4.4)	55.2(4.2)
3					55.4(5.2)	55.3(4.6)	56.8(5.0)

(4) 年 齡 別 身 長 別 平 均 胸 圍

身長	年 齡	6 才	7 才	8 才	9 才	10 才	11 才
	cm	cm					
99		52.0(2.8)					
100		53.2(1.7)					
1		53.0(2.4)					
2		52.8(2.4)					
3		53.3(2.3)	54.4(2.4)				
4		53.6(2.1)	54.5(2.2)				
5		53.7(2.0)	54.9(2.3)				
6		54.0(2.1)	54.4(2.0)				
7		54.6(2.3)	54.8(2.2)				
8		54.4(2.2)	54.5(1.8)				
9		54.8(2.2)	55.3(2.0)				
110		55.0(1.6)	55.4(2.2)	55.7(2.8)			
1		55.4(2.2)	55.7(2.2)	56.2(2.4)			
2		55.5(2.3)	56.0(2.2)	56.9(2.4)			
3		56.0(2.6)	56.2(2.2)	56.4(2.3)	58.2(2.1)		
4		56.1(2.2)	56.6(2.5)	56.9(2.3)	59.1(2.5)		
5		56.1(2.3)	56.6(2.2)	57.5(2.2)	57.9(2.3)		
6		56.6(2.2)	56.8(2.3)	57.6(2.1)	58.4(2.9)		
7		56.7(2.1)	57.3(2.2)	57.8(2.4)	58.4(2.3)	59.6(2.1)	
8		56.8(1.9)	57.1(2.5)	58.0(2.2)	58.6(2.0)	59.7(2.5)	
9		57.2(2.2)	57.5(2.2)	58.2(2.1)	58.7(2.7)	59.9(1.8)	
120			58.0(2.1)	58.5(2.4)	59.4(2.3)	60.5(2.3)	
1			58.2(1.9)	58.6(2.4)	59.6(2.1)	60.9(2.8)	
2			58.7(1.9)	58.9(2.2)	59.8(2.3)	61.5(2.6)	61.7(2.0)
3			58.5(2.5)	59.6(2.6)	59.9(2.3)	60.9(2.5)	61.8(2.6)
4			59.1(2.8)	59.6(2.0)	60.2(2.2)	61.2(2.6)	62.0(2.7)
5			59.3(2.1)	59.6(2.2)	60.5(2.7)	61.4(2.4)	62.5(2.5)
6			60.0(2.3)	60.4(2.8)	61.0(2.4)	61.4(2.4)	62.8(2.6)
7				60.5(2.5)	60.9(2.9)	62.5(2.8)	63.0(2.6)
8				61.2(2.6)	61.8(2.6)	62.5(2.8)	62.8(2.9)
9				61.5(3.4)	62.1(2.5)	62.5(2.5)	64.2(2.8)
130				61.0(1.3)	62.5(2.9)	62.9(2.2)	64.5(2.6)
1				62.2(2.5)	62.8(2.9)	63.5(2.8)	64.4(2.9)
2					62.6(2.9)	63.9(2.5)	64.7(2.9)
3					62.7(2.9)	63.9(2.6)	65.2(2.6)
4					64.4(2.2)	64.2(3.2)	65.7(3.6)
5					63.7(2.2)	65.1(3.3)	65.9(3.1)
6					64.8(3.3)	64.8(3.2)	66.4(2.8)
7					65.8(3.2)	66.8(2.9)	66.5(3.3)
8						66.4(2.4)	66.8(3.2)
9						65.8(2.9)	67.5(3.3)
140						67.8(3.2)	68.4(3.8)
1						67.7(3.0)	68.6(3.6)
2						70.7(4.3)	69.1(3.4)
3							70.3(4.3)
4							70.1(3.4)
5							69.7(3.7)
6							70.8(3.6)
7							72.0(4.6)
8							72.7(4.2)
9							73.5(5.1)

および標準偏差(女子)

身長	年齢	12才	13才	14才	15才	16才	17才
cm	kg						
123		62.5(2.6)					
4		62.2(3.4)					
5		63.4(3.7)					
6		64.4(2.8)					
7		63.9(3.4)					
8		64.0(3.3)					
9		64.3(2.7)					
130		65.1(3.6)	64.3(3.1)				
1		65.7(3.3)	66.9(4.1)				
2		66.0(3.2)	66.3(3.7)				
3		66.3(3.6)	67.6(3.4)				
4		66.9(3.4)	67.8(4.0)	71.7(4.6)			
5		66.6(3.6)	68.4(4.0)	69.5(5.6)			
6		67.6(3.3)	69.1(5.4)	70.6(4.6)			
7		68.1(3.5)	69.5(3.8)	71.6(4.7)			
8		68.2(3.6)	69.5(4.0)	73.5(4.8)	74.2(4.5)		
9		68.3(3.5)	70.0(3.9)	72.5(4.9)	73.3(4.7)		
140		69.6(3.7)	70.8(2.6)	74.1(4.2)	74.5(3.4)	76.9(5.5)	79.6(4.1)
1		70.1(3.8)	71.6(3.7)	73.7(4.2)	76.0(4.7)	78.6(4.1)	79.8(4.8)
2		70.4(3.7)	72.2(4.0)	74.2(4.6)	75.9(4.4)	79.1(4.6)	78.8(4.0)
3		70.9(3.9)	72.7(3.9)	75.0(4.3)	77.2(4.6)	78.0(4.6)	79.2(3.5)
4		71.3(4.1)	73.4(4.2)	75.7(4.3)	76.6(4.2)	77.3(4.1)	79.1(3.6)
5		71.5(4.1)	73.6(4.1)	75.6(4.5)	76.5(4.7)	78.7(4.2)	78.8(4.3)
6		72.3(4.6)	73.9(4.1)	76.1(4.4)	77.9(4.3)	78.4(3.7)	79.7(4.1)
7		71.9(3.3)	74.5(4.2)	76.2(4.2)	77.9(4.1)	79.1(4.0)	79.9(3.7)
8		72.9(4.0)	75.2(4.0)	77.1(4.6)	77.7(4.2)	79.8(4.3)	80.5(4.1)
9		73.7(3.7)	74.8(3.7)	76.8(4.5)	77.7(4.1)	79.4(4.4)	80.0(4.2)
150		73.9(3.8)	75.7(4.3)	77.2(4.3)	78.0(4.1)	80.0(4.6)	80.5(4.1)
1		75.1(3.5)	75.8(4.2)	77.4(4.3)	78.7(4.4)	80.3(4.3)	80.9(4.1)
2		74.8(3.9)	76.0(4.4)	77.9(4.3)	78.6(3.9)	80.2(4.6)	81.2(4.2)
3		75.3(4.5)	76.3(4.5)	77.8(4.7)	79.4(4.4)	81.0(4.5)	81.0(4.0)
4		76.3(4.7)	77.1(4.0)	78.6(4.4)	79.1(4.1)	80.3(4.2)	81.9(4.3)
5		75.5(3.0)	77.9(3.8)	79.3(4.4)	79.3(4.3)	81.2(4.2)	81.4(4.2)
6		76.1(2.2)	77.7(4.3)	79.2(3.8)	80.0(3.9)	81.0(4.0)	81.3(4.3)
7			76.7(3.7)	79.1(4.3)	79.5(4.2)	80.9(3.9)	82.4(4.7)
8			79.5(4.3)	79.5(4.3)	80.0(4.6)	81.1(4.1)	81.7(4.6)
9				79.3(4.7)	80.4(3.7)	81.4(3.7)	82.4(4.3)
160				80.9(5.3)	80.5(4.0)	81.2(4.1)	83.0(4.0)
1				79.6(3.7)	80.6(4.0)	81.8(4.0)	83.4(3.5)
2					80.9(3.9)	82.4(4.0)	83.9(3.6)
3					81.5(3.7)	83.6(3.5)	83.9(4.4)

4. 標準表利用上の注意

ここでは、この標準表の利用と利用上の注意についてのべる。6才男子a, b, c三児童の4月末における身体検査の結果が次のようであったとする。

4.1 表 6才男子a, b, cの三児童の体位の例

児 童	身 長	体 重	胸 囲	坐 高
a	100.5cm (-2)	18.2kg (0)	57.0cm (0)	62.0cm (0)
b	108.3 (0)	15.5 (-1)	51.0 (-2)	58.3 (-1)
c	106.0 (-1)	15.5 (-1)	51.5 (-1)	61.1 (0)

(注) () 内の数は発育段階を示す。

年齢別標準表によつて身長・体重・胸囲・坐高の発育をみると

6才男子	身長ノルムは	115.2cm～106.2cm
	体重ノルムは	20.7kg ～ 16.7kg
	胸囲ノルムは	58.7cm～ 53.9cm
	坐高ノルムは	65.6cm～ 60.2cm

となるから、a児は、体重・胸囲・坐高は標準段階であるが、身長は標準以下である。b児は、身長は標準段階で、体重・胸囲・坐高は標準以下である。c児は、坐高は標準段階であるが身長・体重・胸囲は標準以下である。いま、便宜上、標準段階を0とし、大、甚大をそれぞれ+1, +2, 小、甚小をそれぞれ-1, -2, とするとa, b, c三児童の年齢別標準表による段階は4.1表の括弧で示したものとなる。次に、身長と体重および身長と胸囲の関係を年齢別身長別標準表でみると、6才男子、a, b, c三児童の身長に対応する体重および胸囲のノルムと各児童の発育段階は4.2表のようになる。

4.2 表 a, b, c 三児童の身長に対する体重および胸囲の標準段階

児 童	身 長	身 長 別 体 重		身 長 別 胸 囲	
		ノ ル ム	児童の 段 階	ノ ル ム	児童の 段 階
	cm	kg kg		cm cm	
a	100.5	16.6 ~ 14.6	(+2)	55.6 ~ 52.0	(+1)
b	108.3	19.3 ~ 16.9	(-2)	57.9 ~ 53.9	(-2)
c	106.0	18.4 ~ 16.2	(-1)	57.6 ~ 53.2	(-1)

4.1 表および 4.2 表の結果を考え合せると、次のことがわかる。a 児は身長が極めて小である。しかし、身長にくらべて体重や胸囲が大きい。特に体重が極めて大である。b 児は普通であるが、身長にくらべて体重や胸囲が極めて小である。c 児は、身長は低い方、また、体重・胸囲は身長にくらべて小である。

このようにして、この標準表により、児童生徒の体型とその発育の関係を凡そを知ることができる。

標準表によって明らかにされた体型や発育の位置づけは、いわゆる身体発育の相対的な位置づけであって、健康かどうかという価値的な位置づけではないことに注意する必要がある。すなわち、身長にくらべて体重が標準以下の者は標準以上の者よりも健康が劣ると速断することはできない。標準以下の者もそれはそれなりに健康であり得るわけであり、見方をかえるならば、体重発育にくらべて身長の発育が極めてよいことになる。このような発育は、後でのべるように都市の子供に多くみられる。ここでは、そのような体型や発育を示しているともみるわけである。しかし、この標準表による身体発育の位置づけから、発育の概況を客観的に知ることができるとともに、特に身長・体重・胸囲それぞれについて発育が極めてよくない（-2）段階以下のもの、あるいは身長にくらべて体重や胸囲の発育段階が（-2）段階以下のものや、5 章の事例（A 型）でものべるように、身長別平均体重や平均胸囲からのずれが次第に低下してくるものについては、健康な発育をしているかどうかについて注意して見る必要があるであろう。

このように発育について問題の指摘された児童・生徒については、さらに、日常の観察や疾病その他の調査結果と総合的に考えていくことにより、健康指導の目安が一層明らかになるものと思われる。

5. 児童生徒の体位に関する事例

5.1. 趣 旨

ここでは、この標準表による体位の位置づけが、性・年齢・地域性および栄養指数等と、どのような関係にあるか、また身体虚弱児童についてはどうかを、事例をあげて検討することにより、この標準表を利用する上の資料として提供しようとするものである。この事例は調査対象数も少く、また、都合により紙上調査だけでおわっているため、この結果については一般的な傾向を示すとみることのできない点もあると思われるが、凡その傾向はみられると思われるので、それぞれの地域の児童・生徒の実態を調べていく上の参考となれば幸いである。

5.2. 調査対象の選定と調査内容

調査対象の選定では、普通の生徒については、同一生徒の小学校1年より中学校3年までの記録をみるために、昭和32年4月中学校3年である生徒を調査対象とした。そのため調査対象校では、調査対象に選ばれた中学校の学区内の小学校を選定するようにした。調査対象者は、小学校では、昭和24年4月に第1学年入学の児童となり、その1年より6年までの記録を調査し、中学校ではその生徒の中学1年より3年までの記録を調査した。また、調査対象校は地域別に都市部・平村部・山村部より選んだ。

身体虚弱児童は都市部で身体虚弱児童学級をもつ二校を選び、その全員を調査対象とした。また、高等学校は都市部普通課程の1校を選び、3年の生徒のうち男子は適当な学級を、女子は全員を調査対象とした。調査対象校および調査対象者数は次の通りである。

5.1 表 児童生徒の身体発育に関する調査対象校

地 域 別	学 校 別	学 校 名
都 市 部	小 学 校	○ 新 潟 市 立 礎 小 学 校
		○ " 湊 小 学 校
	中 学 校	" 新 潟 小 学 校
		" 寄 居 中 学 校
	高 等 学 校	新潟県立新潟南高等学校
平 村 部	小 学 校	北蒲原郡豊栄町岡方第一小学校
		" 岡方第二小学校
	中 学 校	" 岡 方 中 学 校
山 村 部	小 学 校	東 蒲 原 郡 三 川 小 学 校
		" 綱 木 小 学 校
		" 新 谷 小 学 校
		" 船 戸 小 学 校
		" 金 山 小 学 校
	中 学 校	" 三 川 中 学 校

(注) ○印は身体虚弱学級児童のみ、その他は普通の児童・生徒を調査対象とする。

5.2 表 児童・生徒の身体発育に関する調査対象者数

地 域 別	普 通 の 児 童 生 徒				身 体 虚 弱 児 童		
	小 ・ 中 学 校		高 等 学 校		年 齢 (才)	男 子	女 子
	男 子	女 子	男 子	女 子			
都 市 部	71	75	125	30	6 7	20 28	22 22
平 村 部	65	65	／	／	8 9	18 12	32 13
山 村 部	41	43	／	／	10 11	3 1	4 5

(注) 新潟小学校では調査対象児童の学級のうち適当な学級を選び、その児童のうち調査時に寄居中学校3年に在学する者を選定した。

また、調査内容は5.3表の通りで、調査票記入は昭和32年6月中旬に依頼し、7月中旬までに報告された。

5.3 表 身体発育に関する調査票 (※印は記入不用)
上腕囲は高校のみ記入)

児童 番号	保の 護職 者業	年 齢	身 長 cm	体 重 kg	胸 囲 cm	坐 高 cm	病日 欠数 日	主 な 疾 病		※ ベリ デン 指 数	上 腕 囲 cm	栄 養 注 意	回 虫 保 有	備 考
								入学前	入学後					
		6												
		7												
		8												
		9												

5.3. 普通の児童生徒の事例

5.3.1. 身長・体重・胸囲の平均発育と地域性との関係

ここでは同一児童・生徒について、6才から14才までの記録のある者を対象にして、身長・体重・胸囲の平均発育とそれが地域とどのような関係にあるかをみていくことにする。

まず、調査対象生徒の環境として保護者の産業構成を示すと、5.4表のようになる。

5.4 表 調査対象者の保護者の産業構成

性別 産業別 地域別		男 子					女 子				
		一次 産業	二次 産業	三次 産業	不明	計	一次 産業	二次 産業	三次 産業	不明	計
都市部	実数	1	8	62	—	71	—	10	65	—	75
	%	1.4	11.3	87.3	—	100	—	13.3	86.7	—	100
平村部	実数	51	6	8	—	65	49	5	11	—	65
	%	78.5	9.2	12.3	—	100	75.4	7.7	16.9	—	100
山村部	実数	22	13	2	4	41	25	5	6	7	43
	%	53.7	31.7	4.8	9.8	100	58.1	11.6	14.0	15.3	100

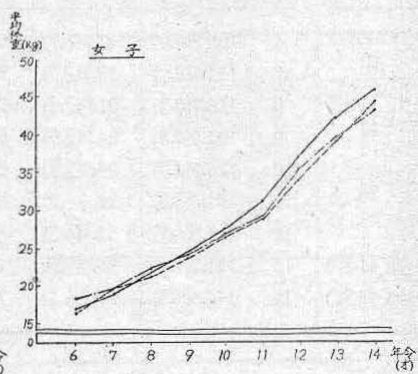
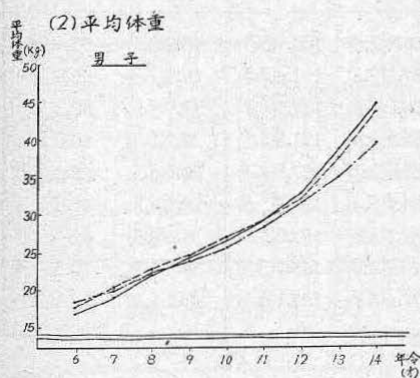
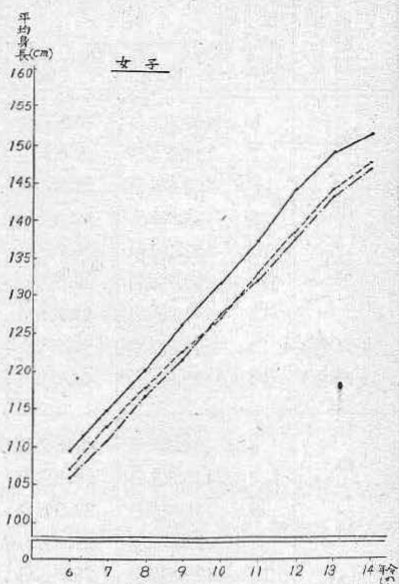
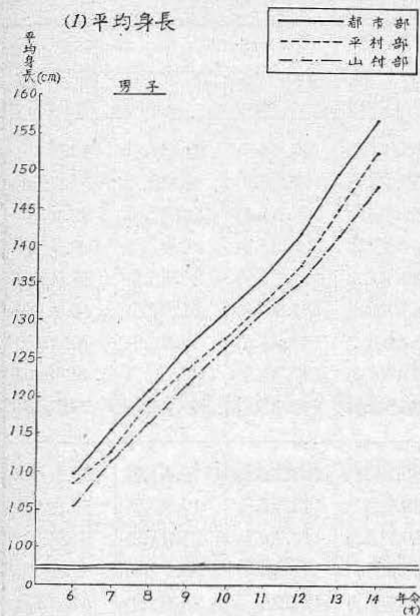
これより、都市部では、第三次産業が多く、平村部、山村部では第一次産業の多いことがわかる。次にこれらの生徒について6才から14才までの平均発育を示すと、5.5表のようになる。ただし、括弧内の数は標準偏差を示す。

5.5 表

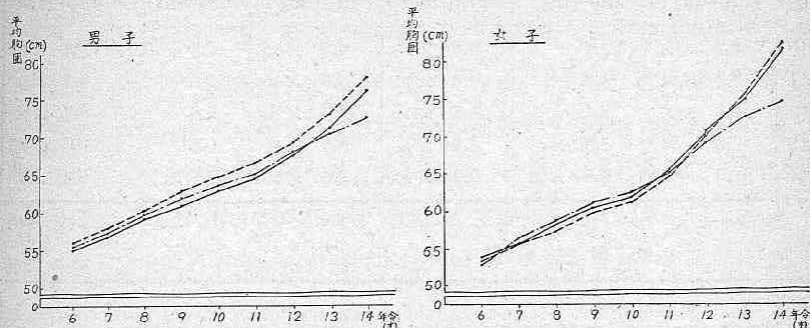
同一生徒集団の各年齢段階における発育平均と地域性との関係

地域別	年齢(才)	男 子			女 子		
		身長 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	身長 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)
都市部	6	109.6(4.6)	16.8(1.6)	55.0(1.7)	109.4(4.8)	16.8(1.6)	53.9(1.9)
	7	115.2(4.3)	19.0(1.8)	57.1(1.8)	115.0(4.8)	18.9(2.1)	55.8(2.5)
	8	120.6(4.3)	21.8(1.9)	59.4(1.8)	120.3(5.1)	21.8(2.5)	58.1(2.6)
	9	126.5(4.5)	24.2(2.2)	61.0(2.2)	126.2(5.3)	24.4(2.6)	60.3(2.6)
	10	131.1(4.6)	26.7(2.4)	63.1(2.1)	131.6(5.9)	27.4(3.3)	62.0(3.0)
	11	135.7(4.9)	29.3(2.9)	64.7(2.4)	137.6(6.6)	31.3(4.5)	65.4(3.5)
	12	141.8(6.0)	32.8(4.0)	67.6(3.1)	144.6(6.6)	36.6(5.5)	70.7(4.7)
	13	149.6(7.4)	38.5(5.8)	71.4(4.4)	149.7(6.0)	42.2(5.7)	74.4(4.7)
	14	156.8(6.7)	44.8(6.0)	76.3(4.5)	152.7(5.6)	45.7(5.2)	79.2(4.5)
	男(71名)						
	女(75名)						
	6	108.3(4.0)	17.2(2.0)	55.7(2.3)	107.2(4.4)	16.4(1.9)	53.7(2.4)
	7	113.8(3.9)	20.1(2.0)	58.0(2.4)	112.5(4.3)	19.3(2.0)	55.8(2.6)
	8	119.4(4.1)	22.6(2.2)	60.7(2.4)	117.7(4.6)	21.6(2.2)	57.5(2.7)
	9	123.6(4.3)	24.4(2.4)	63.0(2.0)	122.5(4.7)	23.5(2.4)	59.6(2.7)
平 村 部	10	127.9(4.3)	26.8(2.6)	64.9(2.3)	127.3(5.1)	26.3(2.8)	61.7(3.2)
	11	132.5(4.9)	29.3(3.0)	66.9(2.6)	133.1(6.0)	28.8(3.5)	64.9(3.3)
	12	137.4(5.5)	32.4(3.9)	69.4(2.8)	138.9(6.4)	33.9(4.8)	69.9(4.1)
	13	145.0(5.9)	37.7(5.4)	73.1(3.6)	144.5(5.8)	39.2(5.2)	75.2(4.5)
	14	152.4(5.8)	44.0(5.6)	78.0(4.1)	148.1(5.9)	44.2(5.6)	79.5(4.4)
	男(65名)						
	女(65名)						
	6	105.2(4.0)	17.9(1.7)	55.3(2.8)	105.9(3.3)	18.2(2.1)	53.1(2.9)
	7	111.5(4.0)	19.7(2.0)	57.7(2.6)	111.6(4.4)	19.3(2.3)	56.4(2.5)
	8	116.7(4.5)	21.9(2.3)	59.9(2.6)	117.1(4.4)	21.9(2.6)	58.3(2.6)
	9	121.9(4.4)	24.0(2.5)	62.2(2.6)	121.8(4.8)	24.2(3.0)	60.6(3.0)
	10	126.5(4.7)	25.9(2.9)	63.6(2.7)	127.8(4.8)	26.5(3.5)	62.2(3.3)
	11	131.3(5.4)	28.4(3.4)	64.9(2.8)	132.5(5.8)	28.8(4.8)	65.0(4.1)
	12	135.3(6.2)	32.1(4.3)	67.7(3.8)	137.9(6.3)	35.6(6.5)	69.3(5.7)
	13	141.2(7.1)	35.0(5.3)	70.7(4.2)	143.7(5.5)	39.4(6.7)	72.5(6.3)
	14	147.6(7.5)	39.9(6.6)	72.6(4.9)	147.1(4.6)	43.2(6.4)	74.6(5.3)
	男(41名)						
	女(43名)						

5.5表を図示すると5.1図のようになる。



(3) 平均胸围



この結果から都市部，平村部，山村部の生徒の6才から14才までにおける平均発育を比較してみることにする。

まず，平均の差が有意かどうかをつぎによって検定した。

$$a_{12} = \frac{|m_1 - m_2|}{\sqrt{\frac{s_1^2}{n_1} + \frac{s_2^2}{n_2}}} \quad \text{とおくとき,} \quad \begin{array}{l} a_{12} > 2 \text{ ならば } 5\% \text{ 危険率で有意} \\ a_{12} > 3 \text{ ならば } 1\% \text{ 危険率で有意} \end{array}$$

とする。ただし， m は平均， s は標準偏差， n は被検者数とし，各文字の添数1は都市部，2は平村部とする。すなわち $m_1 - m_2$ は都市部の平均から平村部の平均をひいた差を示す。

この結果は5.6表の通りである。ただし， \times 印は5%， $\times \times$ 印は1%の危険率で有意となることを示す。 m の添数3は山村部である。

5.6 表 地域別発育平均の差の検定

(1) 身長

年 齢	男 子			女 子		
	$m_1 - m_2$	$m_2 - m_3$	$m_1 - m_3$	$m_1 - m_2$	$m_2 - m_3$	$m_1 - m_3$
6	1.3	3.1 $\times \times$	4.4 $\times \times$	2.2 \times	1.3	3.5 $\times \times$
7	1.4	2.3 \times	3.7 $\times \times$	2.5 $\times \times$	0.9	3.4 $\times \times$
8	1.2	2.7 $\times \times$	3.9 $\times \times$	2.5 $\times \times$	0.5	3.2 \times
9	2.9 $\times \times$	1.9 \times	4.8 $\times \times$	3.7 $\times \times$	0.7	4.4 $\times \times$

年 齢	男 子			女 子		
	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3
10	3.2 ××	1.4	4.6 ××	4.3 ××	-0.5	3.8 ××
11	3.2 ××	1.2	4.4 ××	4.5 ××	0.6	5.1 ××
12	4.4 ××	2.1	6.5 ××	5.7 ××	0.5	6.7 ××
13	4.6 ××	3.8 ×	8.4 ××	5.2 ××	0.8	6.0 ××
14	4.4 ××	4.8 ××	9.2 ××	4.6 ××	1.0	5.6 ××

(v) 体 重

年 齢	男 子			女 子		
	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3
6	-0.4	-0.7	-1.1	0.4	-1.8 ××	-1.4 ××
7	-1.1 ××	0.4	-0.7	-0.4	0	-0.4
8	-0.8	0.7	-0.1	0.2	-0.3	-0.1
9	-0.2	0.4	0.2	0.9	-0.7	0.2
10	-0.1	0.9	0.8	1.1	-0.2	0.9
11	0	0.9	0.9	2.5 ××	0	2.5 ×
12	0.4	0.3	0.7	2.7 ××	-1.7	1.0
13	0.8	2.7 ×	3.5 ××	3.0 ××	-0.2	2.8 ×
14	0.8	4.1 ××	4.9 ××	1.5	1.0	2.5

(v) 胸 囲

年 齢	男 子			女 子		
	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3	m_1-m_2	m_2-m_3	m_1-m_3
6	-0.7	0.4	-0.3	0.2	0.5	0.8
7	-0.9 ×	0.3	-0.6	0	-0.6	-0.6
8	-1.3 ××	0.8	0.5	0.6	-0.8	-0.2
9	-2.0 ××	0.8	-1.2 ×	0.7	-1.0	-0.3
10	-1.8 ××	1.3 ×	-0.5	0.3	-0.5	-0.2
11	-2.2 ××	2.0 ××	-0.2	0.5	-0.1	0.4
12	-1.8 ××	1.7 ×	-0.1	0.8	0.6	1.4
13	-1.7 ×	2.4 ××	0.7	-0.8	2.7 ×	1.9
14	-1.7 ×	5.4 ××	3.7 ××	-0.3	4.9 ××	4.6 ××

5.1図と5.6表とを考え合せてみていくことにする。男子についてみると身長では、都市部の生徒が一番大きく、次が平村部、山村部の順になる。これを年

年齢にみると都市部と平村部では、6才から8才までは差がなく、9才以上になると都市部の子供が平村部の子供より大きくなる。

平村部と山村部では、10才から12才までは有意差がなく、6才から9才、13才から14才の間では平村部の子供の方が大きくなる。山村部と都市部を比較すると、6才から14才まですべてにおいて後者が前者よりも大きい。体重についてみると、都市部と平村部では殆んど差がない。平村部と山村部および都市部と山村部においては、6才から12才までは殆んど差がなく、13才、14才においては平村部や都市部の子供が山村部の子供の体重より大きくなる。胸囲については、都市部の子供は平村部の子供よりも胸囲が少ない。また、山村部とくらべると、6才から13才までは殆んど差がないが14才において都市部の子供が山村部の子供より大きくなる。平村部と山村部では6才から9才までは差がなく、10才以上になると平村部の子供が大きくなる。

女子についてみると、身長においては、都市部の子供は平村部・山村部の子供より大きく、平村部と山村部の子供の間には差がない。

体重についてみると、都市部の子供が、11才から13才ころまでの間において、平村部・山村部の子供の体重より大きくなる。しかし、その他の年齢においては差がない。胸囲についても、14才において都市部・平村部の子供が山村部の子供より大きくなるが、その他の年齢においては都市部・平村部・山村部間に差がない。

次に、発育の増加量を比較してみることにする。6才から14才までの8年間に於いて平均発育がどの程度であったか、その増加を示すと5.7表のようになる。

5.7 表 6才から14才までにおける平均発育の増加量

身長 体重 胸囲	平均 の増加量	性 別			女 子		
		男 子			都市部	平村部	山村部
身 長 (cm)	8年間の増加量	47.2	44.1	42.4	43.3	40.9	41.2
	平均1年間増加量	5.9	5.5	5.3	5.4	5.1	5.2
体 重 (kg)	8年間の増加量	28.0	26.8	22.0	28.9	27.8	25.0
	平均1年間増加量	3.5	3.4	2.8	3.6	3.5	3.1
胸 囲 (cm)	8年間の増加量	21.3	23.3	17.3	25.3	25.8	21.5
	平均1年間増加量	2.7	2.8	2.2	3.2	3.2	2.7

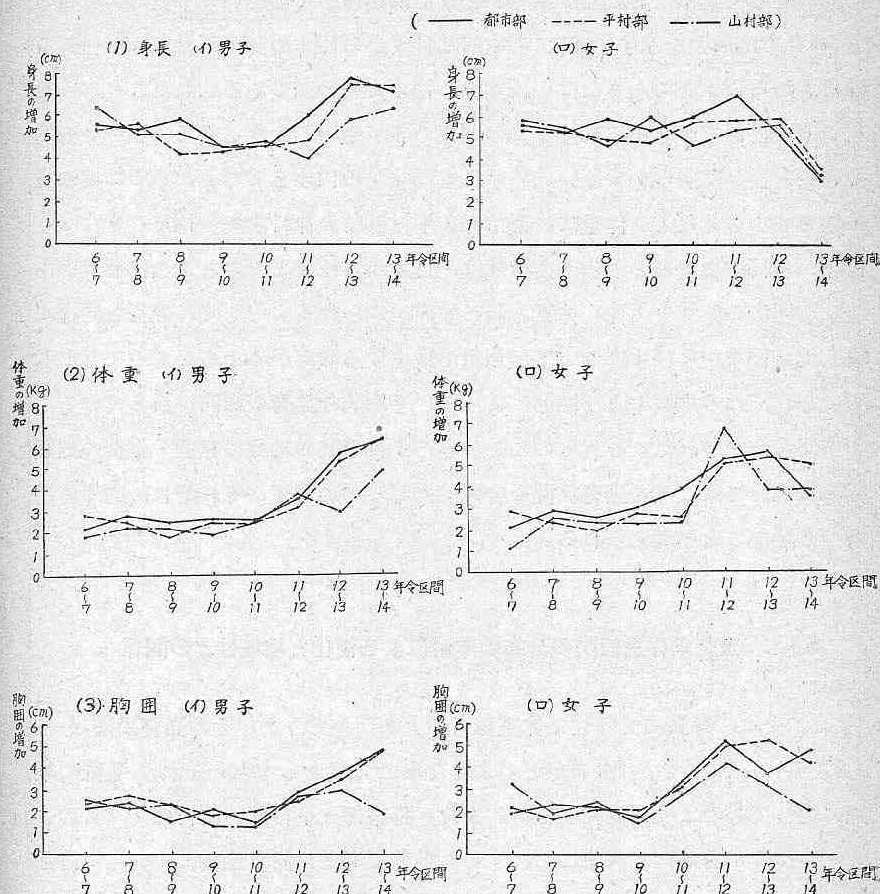
この結果からつぎのことがわかる。身長では都市部の発育量が大きく、山村部が小さい。体重は男子は都市部・平山部・山村部の順に、女子は都市部と平山部は殆んど等しく山村部が劣る。胸囲は男子・女子ともに都市部と平山部は殆んど等しく山村部が劣る。つぎに、男子と女子を比較するに身長では地域に関係なく男子の発育量が女子の発育量よりも大きい。しかし、体重と胸囲はその逆に女子の方が男子よりも大きい。

つぎに、この平均発育の増加量を各年齢段階についてみると5.8表および5.2図のようになる。

5.8 表 各年齢段階における平均発育の増加量

性別	年齢区間	身長 (cm)			体重 (kg)			胸 囲 (cm)		
		都市部	平山部	山村部	都市部	平山部	山村部	都市部	平山部	山村部
男子	6~7	5.6	5.5	6.3	2.2	2.9	1.8	2.1	2.3	2.4
	7~8	5.4	5.6	5.2	2.8	2.5	2.2	2.3	2.7	2.2
	8~9	5.9	4.2	5.2	2.4	1.8	2.1	1.6	2.3	2.3
	9~10	4.6	4.3	4.6	2.5	2.4	1.9	2.1	1.9	1.4
	10~11	4.6	4.6	4.8	2.6	2.5	2.5	1.6	2.0	1.3
	11~12	6.1	4.9	4.0	3.5	3.1	3.7	2.9	2.5	2.8
	12~13	7.8	7.6	5.9	5.7	5.3	2.9	3.3	3.7	3.0
	13~14	7.2	7.4	6.4	6.3	6.3	4.9	4.9	4.9	1.9
女子	6~7	5.6	5.3	5.7	2.1	2.9	1.1	1.9	2.1	3.3
	7~8	5.3	5.2	5.5	2.9	2.3	2.6	2.3	1.7	1.9
	8~9	5.9	4.8	4.7	2.6	1.9	2.3	2.2	2.1	2.3
	9~10	5.4	4.8	6.0	3.0	2.8	2.3	1.7	2.1	1.6
	10~11	6.0	5.8	4.7	3.9	2.5	2.3	3.4	3.2	2.8
	11~12	7.0	5.8	5.4	5.3	5.1	6.8	5.3	5.0	4.3
	12~13	5.1	5.9	5.8	5.6	5.3	3.8	3.7	5.3	3.2
	13~14	3.0	3.5	3.4	3.5	5.0	3.8	4.8	4.3	2.1

5.2図 平均発育の年齢区間別増加量図



これより平均発育増加量は各年齢区間によって必ずしも一定していないことがわかる。

男子についてみると発育増加量は、都市部と平村部が概して似た傾向を示している。山村部は、11才か12才以上になると都市部や平村部よりものびが少くなる。増加量の最大は、都市部・平村部では身長が12才から13才までのところか、13才から14才までのところ。体重・胸囲は後者の年齢区間にきている。山

村部は身長と体重が13才から14才までの間、胸囲は12才から13才までのところに最大がある。ただし、ここでは14才までについて考えているので、14才以上において最大を示すところがあるかどうかは明らかでない。女子についてみると、身長では最大を示す年齢は、都市部は11才から12才の間、平村部・山村部では11才から12才まで、または、12才から13才までの間である。ただし、この資料では山村部で9才から10才までの間ののびが極めて大きくでているが一般的傾向かどうかは明らかでない。いずれも13才から14才までのところでは増加量が極めて小さくなる。体重は、都市部・平村部は大体11才から12才、または、12才から13才までのところ、山村部は、11才から12才までのところに最大がある。胸囲についても大体、体重と同じ傾向がみられる。そして、身長と同様に概して、13才から14才において増加量が減少する傾向がみえる。このようにして、それぞれの地域および性別によって、平均的な発育の傾向が異なっていることが明らかにされた。これらのことから、それぞれの地域の児童・生徒の健康指導においては、その発育状況を客観的に明らかにして、それぞれに応ずる指導の必要なことが考えられる。

5.3.2. 身長別体重段階の分布の年齢による変化と地域性との関係

ここでは、身長にくらべて体重発育が大きいかどうか、その発育段階、-2、-1、0、+1、+2、の分布がどのような形になるか、また、それが年齢の増加に従ってどのように変化するか、また、都市部・平村部・山村部・でどのようにちがうかを考えてみることにする。前節で考えた同じ生徒について、身長別体重段階を年齢別身長別標準表により調査し、これを(+)の段階の者、0段階の者、(0)の段階の者、と三区分し、その比率を求めると5.9表のようになる。また、この結果を三角図表で示すと5.3図のようになる。

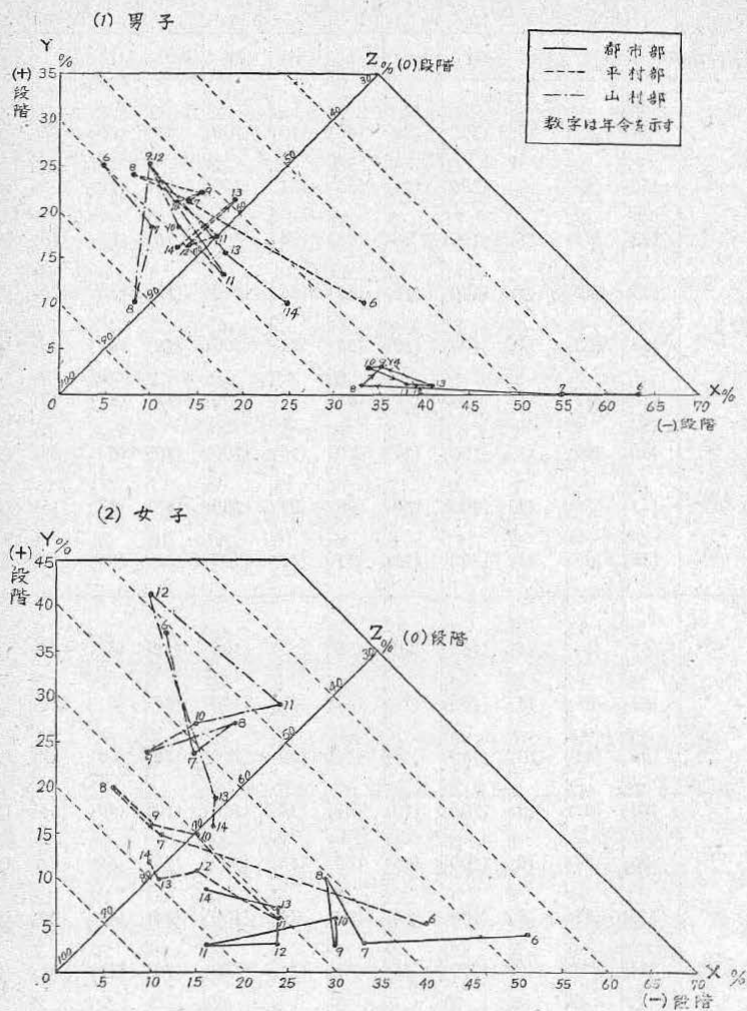
5.9 表

同一児童生徒の身長別体重段階の分布の年齢による変化と地域性との関係

性別	年齡別	地域別				都 市 部				平 村 部				山 村 部			
		身長別	體重別	段階	計	計	計	計	計	計	計	計	計				
														(一)	(0)	(+)	(一)
男	6	45 (83)	26 (37)	0 (0)	71 (100)	21 (33)	36 (57)	6 (10)	63 (100)	2 (5)	28 (70)	10 (25)	40 (100)				
	7	39 (55)	32 (45)	0 (0)	71 (100)	9 (14)	42 (65)	13 (21)	63 (100)	4 (10)	29 (72)	7 (18)	40 (100)				
	8	23 (33)	47 (66)	1 (1)	71 (100)	5 (8)	43 (68)	15 (24)	63 (100)	3 (8)	33 (82)	4 (10)	40 (100)				
	9	25 (35)	44 (62)	2 (3)	71 (100)	10 (18)	39 (62)	14 (22)	63 (100)	4 (10)	26 (65)	10 (25)	40 (100)				
	10	24 (34)	45 (63)	2 (3)	71 (100)	8 (13)	42 (68)	13 (21)	63 (100)	5 (13)	28 (69)	7 (18)	40 (100)				
	11	27 (38)	43 (61)	1 (1)	71 (100)	11 (17)	41 (68)	11 (17)	63 (100)	7 (18)	28 (69)	5 (13)	40 (100)				
	12	28 (39)	42 (60)	1 (1)	71 (100)	9 (14)	44 (70)	10 (18)	63 (100)	4 (10)	62 (65)	10 (25)	40 (100)				
	13	29 (41)	41 (58)	1 (1)	71 (100)	12 (19)	38 (60)	13 (21)	63 (100)	7 (18)	27 (67)	6 (15)	40 (100)				
女	6	36 (51)	31 (44)	3 (4)	70 (100)	25 (40)	34 (55)	3 (5)	62 (100)	5 (12)	21 (51)	15 (37)	41 (100)				
	7	23 (33)	45 (64)	2 (3)	70 (100)	7 (11)	46 (74)	9 (15)	62 (100)	6 (15)	25 (61)	10 (24)	41 (100)				
	8	20 (29)	43 (61)	7 (10)	70 (100)	4 (8)	46 (74)	12 (20)	62 (100)	8 (19)	22 (54)	11 (27)	41 (100)				
	9	21 (30)	47 (67)	2 (3)	70 (100)	6 (10)	46 (74)	10 (18)	62 (100)	4 (10)	27 (66)	10 (24)	41 (100)				
	10	21 (30)	45 (64)	4 (8)	70 (100)	9 (15)	44 (70)	9 (15)	62 (100)	6 (15)	24 (58)	11 (27)	41 (100)				
	11	11 (16)	56 (81)	3 (3)	70 (100)	15 (24)	43 (70)	4 (8)	62 (100)	10 (24)	19 (47)	12 (29)	41 (100)				
	12	17 (24)	50 (73)	3 (3)	70 (100)	9 (15)	46 (74)	7 (11)	62 (100)	4 (10)	20 (49)	17 (41)	41 (100)				
	13	17 (24)	48 (69)	5 (7)	70 (100)	7 (11)	49 (79)	6 (10)	62 (100)	7 (17)	26 (64)	8 (19)	41 (100)				
子	14	11 (16)	53 (75)	6 (9)	70 (100)	6 (10)	48 (78)	8 (12)	62 (100)	7 (17)	28 (68)	6 (15)	41 (100)				

(注) () のない数字は実数, () 内の数字はその%を示す。

5.3図 同一生徒集団の身長別体重段階の分布の年齢による変化を示す三角図



まず、三角図表の見方についてのべると、X軸は(+)段階の%，Y軸は(+)段階の%を示す。Z軸は斜辺からの垂直距離で、0段階の%が示され、 $X \cdot Y \cdot Z$ の%の合計は常に100%になる。たとえば、(1)男子について平村部の6才をみると、(+)段階が33%，(+)段階が10%，0段階が57%となる。また、この三角図

表で数値は年齢を示しているの、年齢の変化によって、各段階の者の比率がどのように変っていったかが容易にみられる。人数が少い関係か年齢によって比率の変化が大きい。概観してわかることは、都市部では、(一)および0の段階の者が多く、(+)段階の者が少い。男子についてみると、標準段階の者が凡そ60%~70%、(一)段階の者が35%程度となる。また、女子は、年齢とともに標準段階の者が多くなり、それだけ(一)段階の者が少くなる。平村部では6才のとき男女ともに(一)段階の者が多く、身長にくらべて体重の不足している者が多かったのが、年齢の増加とともに身長に割に体重の多い児童が多くなり、中学2・3年にたると、(一)段階の者と(+)段階の者が同じようになる。標準段階の者についてみると、男子では凡そ60%~70%、女子では70%~80%程度となる。山村部についてみると、男女ともに始めは身長にくらべて体重の大きい者が極めて多いが、年齢の増加に従って体重の大きくなる児童が少なくなってくる。しかし、都市部ほどにはならない。

以上概観して、都市部・平村部・山村部の特徴的な傾向をみることができた。

5.3.3. 身長別胸囲段階の分布の年齢による変化と地域性との関係

前節の生徒について身長別胸囲段階の分布の年齢による変化を示すと5.10表および5.4図のようになる。

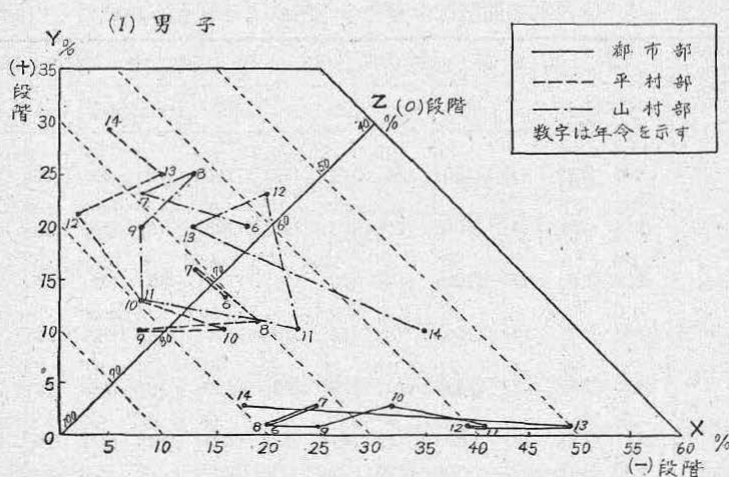
5.10 表

同一児童生徒の身長別胸囲段階の分布の年齢による変化と地域性との関係

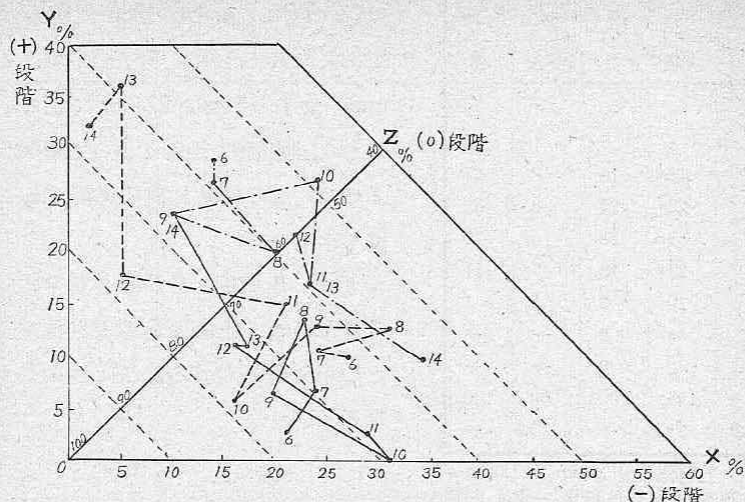
地域別 年齢別 性別		都 市 部				平 村 部				山 村 部			
		身 長 別 胸 囲 段 階				身 長 別 胸 囲 段 階				身 長 別 胸 囲 段 階			
		(一)	(0)	(+)	計	(一)	(0)	(+)	計	(一)	(0)	(+)	計
男	6	14 (20)	56 (79)	1 (1)	71 (100)	10 (18)	45 (71)	8 (13)	63 (100)	7 (18)	25 (62)	8 (20)	40 (100)
	7	18 (25)	51 (72)	2 (3)	71 (100)	8 (13)	45 (71)	10 (16)	63 (100)	3 (8)	28 (69)	9 (23)	40 (100)
	8	14 (20)	56 (79)	1 (1)	71 (100)	12 (19)	44 (70)	7 (11)	63 (100)	5 (13)	25 (62)	10 (25)	40 (100)
	9	18 (25)	52 (74)	1 (1)	71 (100)	5 (8)	52 (82)	6 (10)	63 (100)	3 (8)	29 (72)	8 (20)	40 (100)
	10	23 (32)	46 (65)	2 (3)	71 (100)	10 (16)	47 (74)	6 (10)	63 (100)	3 (8)	32 (79)	5 (13)	40 (100)
子	11	29 (41)	41 (58)	1 (1)	71 (100)	4 (6)	51 (81)	8 (13)	63 (100)	9 (23)	27 (67)	4 (10)	40 (100)
	12	28 (39)	42 (60)	1 (1)	71 (100)	1 (2)	49 (77)	13 (21)	63 (100)	8 (20)	23 (57)	9 (23)	40 (100)

地域別 性別 年齢別 身長 長圍 別段階		都 市 部				平 村 部				山 村 部			
		(一)	(0)	(+)	計	(一)	(0)	(+)	計	(一)	(0)	(+)	計
	13	35 (49)	35 (50)	1 (1)	71 (100)	6 (10)	41 (65)	16 (25)	63 (100)	5 (13)	27 (67)	8 (20)	40 (100)
	14	20 (18)	49 (79)	2 (3)	71 (100)	3 (5)	42 (66)	18 (29)	63 (100)	14 (35)	22 (55)	4 (10)	40 (100)
女 子	6	15 (21)	53 (79)	2 (3)	70 (100)	17 (27)	39 (63)	6 (10)	62 (100)	6 (14)	22 (57)	12 (29)	41 (100)
	7	17 (24)	48 (69)	5 (7)	70 (100)	15 (24)	40 (65)	7 (11)	62 (100)	6 (14)	23 (59)	11 (27)	41 (100)
	8	16 (23)	44 (63)	10 (14)	70 (100)	19 (31)	35 (56)	8 (13)	62 (100)	8 (20)	24 (60)	8 (20)	41 (100)
	9	14 (20)	51 (73)	5 (7)	70 (100)	15 (24)	39 (63)	8 (13)	62 (100)	4 (10)	26 (66)	10 (24)	41 (100)
	10	22 (31)	48 (69)	0 (0)	70 (100)	10 (16)	48 (78)	4 (6)	62 (100)	10 (24)	19 (49)	11 (27)	41 (100)
	11	20 (29)	48 (68)	2 (3)	70 (100)	13 (21)	40 (64)	9 (15)	62 (100)	10 (24)	23 (59)	7 (17)	41 (100)
	12	11 (16)	51 (73)	8 (11)	70 (100)	3 (5)	48 (77)	11 (18)	62 (100)	9 (22)	22 (56)	9 (22)	41 (100)
	13	12 (17)	50 (72)	8 (11)	70 (100)	3 (5)	37 (59)	22 (36)	62 (100)	10 (24)	23 (59)	7 (17)	41 (100)
	14	7 (10)	46 (66)	17 (24)	70 (100)	1 (2)	41 (66)	20 (32)	62 (100)	14 (34)	22 (56)	4 (10)	41 (100)

5.4図 同一生徒集団の身長別体重段階の分布の年齢による変化を示す三角図



(2) 女子



男子についてみると都市部は年齢に関係なく(-)段階の者が多く、平村部では11才以上になると次第に(+)段階の者が多くなる。山村部では、(+)段階の者が多いが年齢の増加に従って(-)段階の者が多くなる。女子についてみると、都市部では、年齢の増加に従って(-)段階より(+)段階の者が多くなる。この傾向は平村部についてもいわれある。山村部は男子の山村部の場合と同じ傾向がある。

5.3.4. 身長別体重段階および身長別胸囲段階と栄養指数との関係

ここでは、栄養指数として高等学校3年(17才)を対象として測定した上腕囲(注₁)を考え、これと身長別体重段階および身長別胸囲段階との関係についてのべる。上腕囲の測定では伸展位上腕囲の最大囲を巻尺で測定するのであるが、これは被検者の右腕を掌を内側にむけ、腕と指を伸したまま略水平に前側方にあげ、上腕挙上筋以外の諸筋はなるべく弛緩させ、上腕二頭筋の最も太いところで長軸に直角に巻尺をあてて目盛を読む。測定は昭和32年4月下旬に実施された。(注₂)

上腕囲の分布は5.11表のようになる。

5.11 表 17才生徒の上腕囲の分布

上腕 cm	男 子		女 子	
	実数	%	実数	%
19	—	—	1	3
20	6	5	1	3
21	18	14	8	27
22	28	22	8	27
23	33	26	6	20
24	22	18	5	17
25	10	8	1	1
26	6	5	—	—
27	2	2	—	—
計	125	100	30	100
平 均	23.2	—	22.6	—

(注) 上腕囲区分 21cmは21.0cm～21.9cmをあらわす。他も同様である。

これより上腕囲の分布は男子は20cmより27cmまで、女子は19cmより25cmまでにわたっており、男子の平均は23.2cm、女子の平均は22.6cmである。しかし、上腕囲は性別によって基準が異なるので、この結果を直接比較することはできない。

つぎに、上腕囲と身長別体重の関係をみるために、上腕囲と身長別体重段階との相関表をつくると5.12表のようになる。

5.12 表 17才生徒の身長別体重段階と上腕囲との関係

上腕 cm	身長別 体重段階	男 子						女 子					
		-2	-1	0	+1	+2	計	-2	-1	0	+1	+2	計
19cm		—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1
20		3	2	1	—	—	6	—	1	—	—	—	1
21		5	5	8	—	—	18	—	4	4	—	—	8
22		—	8	26	—	—	28	—	1	7	—	—	8
23		—	7	26	—	—	33	—	—	5	1	—	6
24		—	2	18	2	—	22	—	—	4	1	—	5
25		—	—	6	4	—	10	—	—	—	1	—	1
26		—	—	2	3	1	6	—	—	—	—	—	—
27		—	—	—	1	1	2	—	—	—	—	—	—
計		8	24	81	10	2	125	—	7	20	3	—	30

これより全体的な傾向として身長別体重段階の高い者の方が低い者よりも上腕囲が大きくなる傾向がみられる。すなわち、身長にくらべて体重の大なる者の方が小なる者よりも栄養指数が大きくなる傾向がある。両者の相関係数を求めると男子では0.651、女子では0.694となり相当に高い相関を示しているといえることができる。

つぎに、身長別胸囲段階と上腕囲との相関表は5.13表のようになる。

5.13 表 17才生徒の身長別胸囲段階と上腕囲との関係

上腕囲	身長別 胸囲段階	男 子						女 子					
		-2	-1	0	+1	+2	計	-2	-1	0	+1	+2	計
19		—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1
20		5	—	1	—	—	6	—	1	—	—	—	1
21		2	9	7	—	—	18	—	3	5	—	—	8
22		—	8	20	—	—	28	—	2	6	—	—	8
23		—	9	23	1	—	33	—	—	6	—	—	6
24		—	5	16	1	—	22	—	—	5	—	—	5
25		—	—	8	2	—	10	—	—	—	1	—	1
26		—	—	4	1	1	6	—	—	—	—	—	—
27		—	—	1	—	1	2	—	—	—	—	—	—
計		7	31	80	5	2	125	—	6	23	1	—	30

これより全体的傾向として身長別胸囲段階の大きい者が上腕囲も大きくなる傾向がみられるが、身長別体重段階の場合ほど顕著でない。両者の相関係数は男子で0.566、女子では0.489となる。

5.3.5. 個々の生徒の発育事例

ここでは個々の生徒の発育事例として、都市部・平村部・山村部の14才男子より各特徴的な生徒1名を選んでのべることにする。

(1) A生徒の事例 (都市部14才男子)

都市部の生徒Aは小学校入学前は特別な病気をしていない。入学後の発育その他の状況は5.14表の通りである。

(注) 1. 体力測定 (吉田章信著) 参照

2. 新潟南高校 島文治郎氏の測定による。

5.14 表 A 生徒の身体發育その他の状況

年 齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	發育増加量			身長別平均体重及び平均胸囲との差		身長別体重段階および胸囲段階		入学後の状況			
				身長 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	主病 な	病日 欠数	榮養 注意	回保 虫有
6	113.0	17.7	54.5	5.6	2.3	1.5	-1.9	-2.4	-1	-1	なし	0	否	なし
7	118.6	20.0	56.0				-1.7	-3.1	-1	-1	"	0	"	"
8	123.6	23.0	59.0	5.0	3.0	3.0	-0.7	-2.1	0	0	"	0	"	"
9	130.2	25.0	60.2	6.6	2.0	1.2	-2.5	-3.8	-1	-1	"	0	"	"
10	134.8	26.5	62.5	4.6	1.5	2.3	-3.1	-3.5	-1	-1	"	0	"	"
11	139.0	28.5	63.2	4.2	2.0	0.7	-4.6	-5.1	-1	-1	"	0	"	"
12	144.1	31.0	64.0	5.1	2.5	0.8	-5.1	-6.3	-1	-2	"	8	"	"
13	150.0	35.0	68.0	5.9	4.0	4.0	-6.3	-6.6	-1	-1	"	1	"	"
14	160.3	42.0	72.0	10.3	7.0	4.0	-8.0	-8.0	-2	-2	鼻炎	-	"	"
				計 (47.3)	(24.3)	(17.5)								

ここに「發育増加量」欄はたとえば身長についてみると6才～7才までの増加量は118.6cm-113.0cm=5.6cmと計算されるわけである。その他も同じ。また、「身長別平均体重及び平均胸囲との差」欄はつぎのように求められている。たとえば、男子年齢別身長別体重標準表の6才の標準表についてみると、この生徒の身長113.0cmに対応する身長別平均体重は19.6kgとなる。A生徒の体重は17.7kgであるから、その差は17.7kg-19.6kg=-1.9kgとなり、平均体重よりも1.9kg少ないことになる。この-1.9が体重の項に示されていることになる。以下胸囲の項も同じように(+)で示されたところは平均体重あるいは平均胸囲よりもそれだけ不足していることを表わし、逆に(-)で示されていれば、その生徒の体重や胸囲が平均体重あるいは平均胸囲よりもそれだけ大きいことを表わしている。「身長別体重段階および胸囲段階」は、4章で示したと同じ考えで示されている。A生徒は、入学後おもな病気をしていないし病欠も少い。栄養要注意者にかい当していない。また回虫の保育もないことがわかる。

つぎに、年齢別標準表によって、A生徒の各年齢における身長・体重・胸囲の發育段階を示すとつぎのようになる。この見方は4章で示した通りである。ただし、標準段階0の添記号(+)は年齢別平均より大なることを示す。たとえば、6才の身長についてみると年齢別平均は110.7cmで、A生徒の身長は113.0

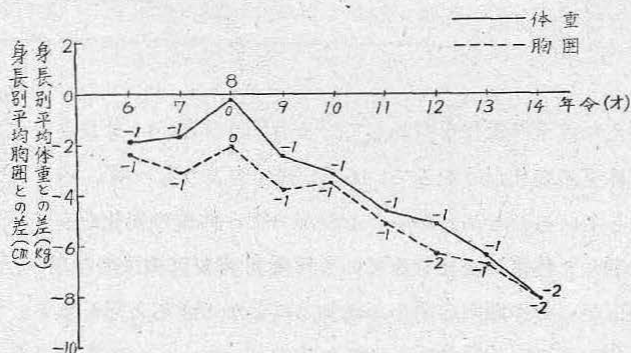
cmで、A生徒の身長が平均より大きいから(+)となる。同じように(-)は年齢別平均よりも小、添記号のない0は年齢別平均と一致にすることを示す。

5.15 表 A生徒の年齢別身長・体重・胸囲の段階

年 齢 (才)	6	7	8	9	10	11	12	13	14
身 長	0+	0+	0+	0+	+1	0+	0+	0+	+1
体 重	0-	-0	0+	0	-0	0-	0-	0-	0-
胸 囲	0-	-0	0-	0-	-0	0-	-1	-1	0-

これで見ると、14才では身長は普通の生徒よりやや大きい方で、体重や胸囲は普通ではあるが、平均より小さい方である。つぎに身長にくらべた体重をみると、8才のときに0段階で身長相応の体重とみられるが、その他では-1段階、または、-2段階で身長にくらべて体重が少い方である。このことは胸囲についてもいえる。いま、身長にくらべて体重や胸囲の少い状況をみるのに、「発育増加量」欄について累年の傾向をみるとつぎのようになる。5.14表より6才から14才までの発育増加量合計は身長47.3cm、体重は24.3kg、胸囲は17.5cmである。これを5.7表における都市部の生徒の発育増加量と比較すると、身長の増加は普通であるが、体重と胸囲の増加が不足しているということがわかる。年齢別にみると体重では9才～10才、胸囲では10才～11才、11才～12才、13才～14才におけるのびの少いことがわかる。つぎに「身長別平均体重および平均胸囲との差」の欄についてこれを図示すると5.5図のようになる。

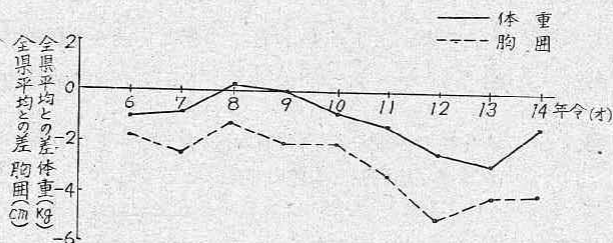
5.5 図 A生徒の体重および胸囲の身長別平均体重との差および平均胸囲との差の年齢による変化



この図では横軸は年齢、縦軸は身長別平均体重および平均胸囲との差を示している。また、(+), (-), 0は身長別体重および身長別胸囲の段階を示している。すなわち、14才についてみると、体重・胸囲ともに身長別平均体重や平均胸囲より8 kg および8 cm小さくいずれも-2段階である。これより年齢とともに体重や胸囲が次第に平均体重や平均胸囲から遠ざかり体重や胸囲の発育量が平均にくらべて少なくなっていくことがわかる。このように減小傾向が甚だしく、14才で-2段階になっている生徒においては身長と体重および胸囲の発育のバランスの上で問題があるかどうか、いろいろの面から調査検討し、指導上留意していく必要があると考えられる。

いま、このA生徒の体重や胸囲の変化を以上のように身長別体重や身長別胸囲とくらべてみるのではなく、全県の年齢別平均体重および平均胸囲とくらべてみるとどのような傾向がみられるかについて考えてみる。それにはA生徒の体重および胸囲を年齢別標準表における全県平均とくらべてみればよい。その差を求めこれを図示すると5.6図のようになる。この図と5.5図を比較すると、身長

5.6 図 A生徒の体重および胸囲の全県平均との差
年齢による変化



の変化を考えた体重の変化を表わしている5.5図の方が、身長の変化を考えないで、ただ体重の変化だけをみている5.6図の方よりも一層、その発育傾向を明らかに示していることがわかる。したがって、体重の変化をみていくには身長の変化を考えた体重の変化をみていく年齢別身長別標準表を用いた5.5図を考えていく方が、その傾向を明らかに知ることができると思われる。このことは胸囲の変化をみていく場合にもいわれる。

(2) B 生徒の事例 (平村部14才男子)

平村部の生徒Bは、小学校入学前は特別な病気をしていない入学後の発育その他の状況は5.16表の通りである。

5.16表 B 生徒の身体発育その他の状況

年 齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	発育増加量			身長別平均体重及 び平均胸囲との差		身長別体格段階 および胸囲段階		入学後の状況					
				身長 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	主病 な気	病日 欠数	榮 養 注 意	回保 虫有		
6	105.0	17.0	54.0	5.8	3.5	4.0	0.2	-1.1	0	0	なし	0	否	0		
7	110.8	20.5	58.0				1.7	0.9	+1	0	"	0	"	0		
8	115.4	23.5	59.5	4.6	3.0	1.5	2.6	0.3	+1	0	"	1	"	なし		
9	119.3	25.5	62.0				3.9	2.0	2.5	2.8	0.9	+1	0	"	0	"
10	124.1	27.5	64.0	4.8	2.0	2.0	2.6	1.1	+1	0	"	1	"	なし		
11	128.6	31.5	68.0				4.5	4.0	4.0	4.4	3.1	+2	+1	"	17	"
12	133.5	33.5	71.5	5.0	2.0	3.5	3.2	4.6	+1	+1	"	4	"	0		
13	143.3	41.5	78.0				9.7	8.0	6.5	5.3	6.5	+2	+2	"	1	"
14	151.2	49.5	81.5	7.9			8.0	3.5	6.4	5.3	+2	+1	"	—	"	なし
				計 (46.2) (32.5) (27.5)												

B生徒は、入学後主な病気をしていない。病欠は11才のとき17日あるがその他ではあまりない。栄養状態にも問題はない。ただ回虫を時々保存していたことがあるが現在は保存してない。各年齢における身長・体重・胸囲の発育段階を年齢別標準表によってみるとつぎのようになる。

5.17表 B 生徒の年齢別身長・体重・胸囲の段階

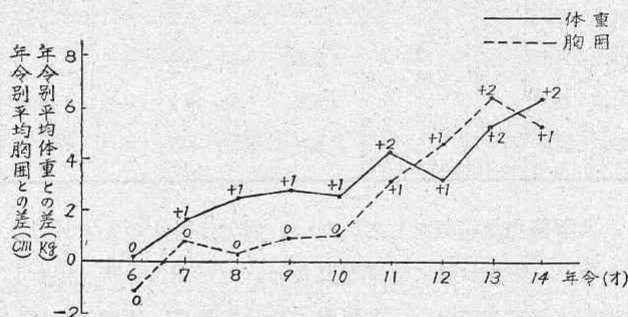
年 齢 (才)	6	7	8	9	10	11	12	13	14
身 長	-1	-1	-1	-1	-1	0-	0-	0-	0-
体 重	0-	0-	0+	0+	0+	0+	0+	0+	0+
胸 囲	0-	0-	0-	0-	0-	0+	0+	+1	+1

これにより、14才についてみると、身長・体重とも標準段階で14才としては普通の大きさである。胸囲は+1段階で大きい方である。6才からの変化についてみると身長は最初小さい方であったものが11才より標準段階となってい

る。体重は、始めから普通、胸囲は最初普通であったのが、13才より大きい方になる。以上のことから、身長と体重および胸囲の関係について凡そのことがわかったわけであるが、さらに、身長別体重および胸囲についてみると5.16表で示すように、特に身長別体重や胸囲の段階が年齢とともに+1、+2段階となってきたことから身長にくらべて体重や胸囲が次第に大きくなってきていることがわかる。6才から14才までの8年間にわたるのびの状況をみると身長は46.2cmで、5.7表とくらべると都市部の生徒の発育に近い。

これに対して、体重は32.5kg、胸囲は27.5cmとなってA生徒にくらべて増加量が多い。身長別平均体重、および平均胸囲との差を図示すると5.7図のようになる。

5.7 図 B生徒の体重および胸囲の身長別平均体重との差
および平均胸囲との差の年齢による変化



これより、年齢とともに体重や胸囲が身長別平均体重や平均胸囲よりも次第に大きくなっていくことがわかる。5.17表によって指摘したように、身長は-1段階から0-段階になってきていることがわかるし、その発育増加量は都市の生徒と大してちがわない。このような身長発育にくらべて体重や胸囲の発育のこの傾向は、極めて充実した型を示しているものと考えられる。A生徒と対しよう的な型を示していると思われる。

(3) C 生徒 の 事 例 (山村部14才男子)

山村部のC生徒も前の生徒と同様に小学校入学前には特別な病気をしていない。入学後の発育その他の状況は5.18表の通りである。

5.18 表 C 生徒の身体發育その他の状況

年 齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	發育増加量			身長別平均体重及 び平均胸囲との差		身長別体重段階 および胸囲段階		入学後の状況			
				身長 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	体重 (kg)	胸囲 (cm)	主病 な	病日 欠数	栄注 養意	回保 虫有
6	106.0	17.5	55.0	5.4	1.5	0.5	0.2	-0.4	0	0	なし	2	否	なし
7	111.4	19.0	55.5				-0.2	-1.8	0	0	"	2	"	"
8	117.1	22.5	57.5				1.1	-1.9	0	0	"	3	"	"
9	120.8	23.5	60.0				0.6	-1.3	0	0	"	2	"	"
10	126.0	25.2	61.5	5.2	1.7	1.5	-0.9	-2.2	0	0	"	0	"	"
11	130.0	27.5	62.0	4.0	2.3	0.5	-0.3	-3.1	0	-1	"	7	"	0
12	135.0	30.8	64.5	5.0	3.3	2.5	-0.2	-2.9	0	-1	"	4	"	"
13	143.0	37.4	68.5	8.0	6.6	4.0	1.2	-3.0	0	0	"	2	"	"
14	154.6	44.5	75.0	11.6	7.1	6.5	-0.7	-2.4	0	0	"	-	"	"
				計 (48.6)	(27.0)	(20.0)								

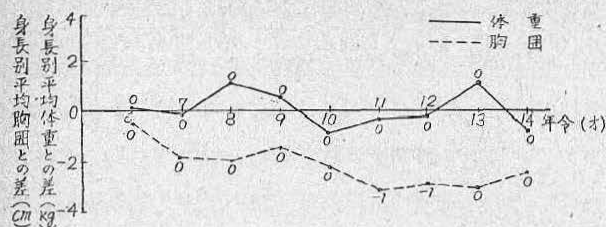
C 生徒は入学後主な病気をしていない。栄養についても問題はないし、回虫についても現在は問題はない。各年齢における身長・体重・胸囲の段階を年齢別標準表によってみると 5.19 表のようになる。

5.19 表 C 生徒年齢別身長・体重・胸囲の段階

年 齢	6	7	8	9	10	11	12	13	14
身 長	-1	-1	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0+
体 重	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0+
胸 囲	0-	-1	-1	0-	0-	-1	-1	0-	0-

これより14才についてみると身長・体重・胸囲とも普通の大きさの子供である。6才からの変化をみると、身長は小さい方であったのが普通になる。体重は始めから普通、胸囲は普通であったり、やや小さくなったりしている。全体に普通としても少し小さい方である。つぎに、身長別平均体重および平均胸囲との差を図示すると 5.8 図のようになる。

5.8 図 C生徒の体重および胸囲の身長別平均体重との差
および平均胸囲との差の年齢による変化



これより、年齢とともに体重は身長別平均より大きくなったり小さくなったりしていることがわかる。胸囲は身長別平均胸囲より小さいが、

格段と減少する傾向は示さない。

発育増加量をみると、身長は8年間に、48.6cmの増で5.7表によれば都市部の生徒の平均なみであって極めてよい。体重は27.0kgでこれも平村部の生徒の平均なみである。胸囲は20.0cmで山村部の生徒としてはややよい方であるが都市部や平村部の生徒よりは劣っている。胸囲の発育がやや少ない方で、全体としては普通の大きさの生徒であるが、比較的均衡のとれた発育をしている。

いま、A生徒のような型をA型、B生徒、C生徒のような型をB型、C型とよぶならば調査対象全体を通してみると都市部、平村部、山村部を通していずれにも、A型、B型C型を示す生徒のいることがわかる。これらのうち、C型が特に多いようである。

5.4. 身体虚弱児童の事例

5.4.1. 入学前および入学後における主な病気ならびに年間

平均病欠日数

ここではまず、身体虚弱児童全体が入学前および入学後において患ったおもな病気ならびに、年間1人平均の病欠日数がどのようになっているかについてみると5.21表のようになる。ただし、たとえば1年生については6才児のみについて考え、7才で1年のものは除いてある。2年以下についても同様である。このようにすると調査対象者数は5.20表のようになる。

5.20 表 調査対象の身体虚弱児童数

性別 \ 学年別	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
男 子	20人	28人	18人	12人	3人	1人
女 子	22人	22人	32人	13人	4人	5人

なお、5.21 で「入学後の主な病気様子」欄は、同一児童の病名や身体の様子が何個学年かにわたっている場合その病名は1とし、他の児童がその病気をした場合はその数を合計した。従って、たとえば、2年男子について入学後の病気欄には、入学後2年の調査時までにかかった病気がかかげられているということになる。また、病気欄に括弧で示された数量はその頻度を示す。数値の示されていないところの頻度は1人をあらわす。これより、病気の種類が極めて多いことと、重い病気のあることがわかる。

5.21 表 入学前の主な病気および入学後各学年までにかかった主な病気と年間1人平均病欠日数

学年と人数	男 子			女 子		
	入学前の主な病	入学後の主な病気、様子	年間1人平均病欠日数	入学前の主な病	入学後の主な病気、様子	年間1人平均病欠日数
1年	膀胱手術 ジフテリア 小児まひ 中耳炎 くる病 ヘルニア(2) ひきつけ 腸炎 ペルテス氏病 小児結核	トラホーム		中耳炎 ヘルニア(4) 肺炎(2) ぜんそく(3) 膝関節炎 百日咳 小児結核(5)		
男女 2022 名						
	鼻カタル(2) 扁桃腺炎	慢性鼻炎(4) 扁桃腺肥大(6)	1と 年の 7日 のき	気管枝炎(2) 慢性中耳炎(2)	気管枝炎(2) 慢性鼻炎(5)	1と 年の 11日 のき

学年と人数	男 子			女 子		
	入学者の主な病	入学者の主な病	年間1人平均病欠席日数	入学者の主な病	入学者の主な病	年間1人平均病欠席日数
2年	腸カタル 扁桃腺肥大 百日咳(6) 心臓脚気 湿疹 中耳炎(2) 肺炎(2) 気管枝カ はしか(5)	外耳炎 湿疹(2) 心臓脚気 眼瞼炎 扁桃腺炎(2) 肺浸潤 中耳炎 左右灰沈着 (肺腺傍) 腸カタル 気管枝カ タル(2) 風邪(2) 腎臓炎 肺炎		眼瞼炎 小児結核(2) 肺炎(2) 湿疹 腎臓炎 ぜんそく(2) はしか(4) 百日咳(3) 脳膜炎	扁桃腺炎 腎臓炎 ぜんそく 風邪(2) 肺浸潤 盲腸炎 肺門淋巴腺炎	
3年	小児ぜんそく 自家中毒 肺炎(2) 百日咳(2) 気管枝炎(2) 中耳炎 はしか(2) 大腸カタル ひきつけ 小児結核	疲労しやすい 自家中毒 風邪(3) 慢性中耳炎 扁桃腺肥大 心臓症 はしか 肺炎 百日咳	1と4 年のき日 2と9 年のき日	気管枝炎(3) 百日咳(8) 小児まひ 腸へいそく 腹膜炎 肋膜炎 肺炎(4) デフテリヤ(3) 自家中毒(2) 腎臓炎 はしか(9) 栄養不足による種々の病氣 小児ぜんそく(3) 疫痢(3) 中耳炎(3) 扁桃腺炎(2) 腸炎 肺門淋巴腺炎 十二指腸虫	肪膜肥厚 はしか(2) 神経痛 扁桃腺炎 自家中毒 腸炎 流兒 小ぜんそく(2) 肺浸潤 中耳炎 慢性鼻炎(3) 扁桃腺肥大(5) 結膜炎 急性腎臓炎 頸腺肥大 肺炎	1と9 年のき日 2と13 年のき日
男女 2822 名	男女 3218 名					

学年と人数	男 子				女 子			
	入学者の主な病	入学者の主な病	入学者の主な病	年間1人平均欠席日数	入学者の主な病	入学者の主な病	年間1人平均欠席日数	年間1人平均欠席日数
4年 (男女1213名)	赤 痢 軽 度 脱腸 水 痘 癩 腎 臓 炎 腸 カ タ 大 腸 カ タ 中 耳 炎	風 結 核 結 核 児 肺 肺 扁 桃 腺 気 管 炎	邪 見 の (3) 炎 炎 炎 炎 炎 炎	1年と4日 2年と5日 3年と11日	肺 炎 (2) 百 日 咳 (4) 自 家 中 毒 小 児 ま ひ 水 痘 左 脚 脱 臼	疲 勞 し や す い 喉 内 炎 結 核 所 見 児 童 (2)	1年と11日 2年と7日 3年と13日	
5年 (男女34名)		結 膜 炎 肋 膜 肥 厚 肺 門 淋 巴 腺 炎 肺 結 核		1年と6日 2年と25日 3年と11日 4年と32日	肺 炎 は し る あ か き	ぜ ん そ く 腎 臓 炎	1年と16日 2年と30日 3年と38日 4年と27日	
6年 (男女15名)	な し	な し		1年と4日 2年と4日 3年と0日 4年と0日 5年と2日	は し か (2) 中 耳 炎 (2) 肺 炎 節 関 節 炎 気 管 枝 炎	気 管 枝 炎 肋 膜 腺 肥 大 扁 桃 腺 炎 慢 性 鼻 病 舞 踊	1年と23日 2年と6日 3年と9日 4年と13日 5年と21日	

5.4.2. 身長・体重・胸囲の平均発育

ここでは前節にのべた児童について、身長・体重・胸囲の平均発育を考える。各学年のそれぞれの年齢における平均発育は5.22表のようになる。

5.22 表 身体虚弱児童の身長・体重・胸囲の平均發育

身長 体重 胸囲	性別 学年別 年齢別 人数	男 子						女 子					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		20人	28人	18人	12人	3人	1人	22人	22人	32人	13人	4人	5人
		20人	28人	18人	12人	3人	1人	22人	22人	32人	13人	4人	5人
身長 (cm)	6才	111.9	109.9	109.9	111.1	107.4	110.0	109.7	109.2	108.4	108.3	106.1	104.9
	7	—	115.2	115.5	116.5	113.4	114.5	—	114.6	113.6	113.5	113.9	110.1
	8	—	—	120.6	122.0	119.2	119.0	—	—	119.2	119.0	119.8	115.4
	9	—	—	—	127.3	124.9	124.2	—	—	—	124.1	125.1	120.9
	10	—	—	—	—	128.5	128.8	—	—	—	—	130.5	126.8
	11	—	—	—	—	—	133.3	—	—	—	—	—	133.1
体重 (kg)	6	17.6	18.0	17.0	17.8	18.1	17.2	17.0	17.4	17.1	16.4	17.4	15.7
	7	—	20.0	18.9	19.8	18.8	19.7	—	19.2	19.1	18.0	17.8	18.0
	8	—	—	20.8	21.6	20.9	20.5	—	—	21.0	20.0	19.5	19.2
	9	—	—	—	23.9	22.9	21.8	—	—	—	22.4	20.9	21.2
	10	—	—	—	—	25.4	24.0	—	—	—	—	23.6	24.0
	11	—	—	—	—	—	27.1	—	—	—	—	—	27.4
胸 囲 (cm)	6	55.6	54.5	53.2	54.3	53.6	54.0	53.6	53.3	52.8	51.7	51.4	50.1
	7	—	57.0	55.3	55.8	55.3	55.0	—	55.2	54.8	53.4	53.6	52.4
	8	—	—	57.4	57.8	57.2	58.2	—	—	56.8	55.4	54.7	55.0
	9	—	—	—	60.3	59.0	59.5	—	—	—	57.2	55.5	56.0
	10	—	—	—	—	61.0	61.6	—	—	—	—	58.2	58.0
	11	—	—	—	—	—	62.0	—	—	—	—	—	60.1

(注) この表では、たとえば、3年生男女18人の身長平均は6才のとき109.9cm、7才で115.5cm、8才で120.6cmであることを示す。

5.22表より各学年の児童の平均的な發育の段階を年齢別標準表でみると5.23表のようになる。ただし、0段階の添記号+、-は5.15表の場合と同じ意味のものである。

5.23 表 身体虚弱児童の平均發育の段階

身体 長重 胸	性別 学年別 胸囲	男 子						女 子					
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
身長		0+	0-	0-	0-	0-	0-	0+	0-	0-	0-	0+	0-
体重		0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-	0-
胸囲		0-	0-	-1	0-	-1	-1	0-	0-	0-	-1	-1	-1

この結果から各学年とも平均的にみると、身長は、男女ともに普通、体重は女子の5年が(-1)段階でその他は普通、胸囲は男子では3年・5年・6年、女子では4年・5年・6年が(-1)段階でやや小さい方、その他は普通となる。年齢別全県平均との差は殆んど大部分(-)である。これより全般的に小さいことがわかる。特に胸囲が小さい。つぎに、各学年児童の累年の発育増加量をみると5.24表のようになる。

5.24 表 身体虚弱児童の各年齢区間における平均発育の増加量

身長・胸囲・体重	年齢区間	男 子					女 子				
		学 年 別					学 年 別				
		2年	3年	4年	5年	6年	2年	3年	4年	5年	6年
身長 (cm)	6~7	5.3	5.6	5.4	6.0	4.5	5.4	5.2	5.2	7.8	5.2
	7~8	—	5.1	6.5	5.8	4.5	—	5.6	5.5	5.9	5.3
	8~9	—	—	5.3	5.7	5.2	—	—	5.1	5.3	5.5
	9~10	—	—	—	3.6	4.6	—	—	—	5.4	5.9
	10~11	—	—	—	—	4.5	—	—	—	—	6.3
体 重 (kg)	6~7	2.0	1.9	2.0	0.7	2.5	1.8	2.0	1.6	0.4	2.3
	7~8	—	1.9	1.8	2.1	0.8	—	1.9	2.0	1.7	1.2
	8~9	—	—	2.3	2.0	1.3	—	—	2.4	1.4	2.0
	9~10	—	—	—	2.5	2.2	—	—	—	2.7	2.8
	10~11	—	—	—	—	3.1	—	—	—	—	3.4
胸 囲 (cm)	6~7	2.5	2.1	1.5	1.7	1.0	2.9	2.0	1.7	2.2	2.3
	7~8	—	2.1	2.0	1.9	3.2	—	2.0	2.0	1.1	2.6
	8~9	—	—	2.5	1.8	1.3	—	—	1.8	0.8	1.0
	9~10	—	—	—	2.0	2.1	—	—	—	2.7	2.0
	10~11	—	—	—	—	0.4	—	—	—	—	1.9

調査対象数が少ないことや年度が異なるので5.7表の都市部の児童と比較することにはむりな点があると思われるが、概括的な見方ということであらべてみると特に7才〜8才における体重の増加が男女ともに普通の生徒よりも劣っている。

5.4.3. 身長別体重段階・身長別胸囲段階の分布と栄養要注意との関係

身長別体重段階および身長別胸囲段階と、医師の診断による栄養要注意との関係は5.25、5.26表のようになる。

5.25 表

身体虚弱児童の身長別体重段階と

性別	栄養 養注意 意かどうか	身長別 体重段階	学年別 1 年(6才)						2 年(7才)					
			-2	-1	0	1	計	-2	-1	0	1	2	計	
			実数											
男 子	栄養 養要	注意 者	実数	3	5	5	—	13	1	2	10	1	2	16
		%	100	100	45	—	69	50	33	59	100	100	57	
	栄養 養要	注意 でない 者	実数	0	0	6	—	6	1	4	7	0	0	12
		%	0	0	55	—	31	50	67	41	0	0	43	
	計		実数	3	5	11	—	19	2	6	17	1	2	28
			%	16	29	58	—	100	7	21	61	4	7	100
女 子	栄養 養要	注意 者	実数	3	10	8	1	22	5	2	8	—	—	15
		%	100	100	100	100	100	100	67	57	—	—	68	
	栄養 養要	注意 でない 者	実数	0	0	0	0	0	0	1	6	—	—	7
		%	0	0	0	0	0	0	33	43	—	—	32	
	計		実数	3	10	8	1	22	5	3	14	—	—	22
			%	14	46	38	5	100	23	14	64	—	—	100

(注) %は各身長別体重段階における百分率を示す。

5.26 表

身体虚弱児童の身長別胸囲段階と

性 別	栄養 養注意 意かどうか	身長別 胸囲段階	学年別 1 年(6才)						2 年(7才)					
			-2	-1	0	1	2	計	-2	-1	0	1	2	計
			実数											
男 子	栄養 養要	注意 者	実数	—	3	10	—	—	13	0	5	9	1	15
			%	—	75	67	—	—	69	0	63	53	100	57
	栄養 養要	注意 でない 者	実数	—	0	5	—	—	5	1	3	8	0	13
			%	—	25	33	—	—	31	100	37	47	0	43
女 子	計		実数	—	4	15	—	—	19	1	8	17	1	28
			%	—	21	79	—	—	100	4	29	61	4	100
男 子	栄養 養要	注意 者	実数	2	6	11	1	2	22	1	5	9	—	15
			%	100	100	100	100	100	100	100	56	—	—	68
	栄養 養要	注意 でない 者	実数	0	0	0	0	0	0	0	0	7	—	7
			%	0	0	0	0	0	0	0	0	44	—	32
女 子	計		実数	2	6	11	1	2	22	1	5	16	—	22
			%	9	27	50	5	9	100	5	23	73	—	100

栄養要注意との関係

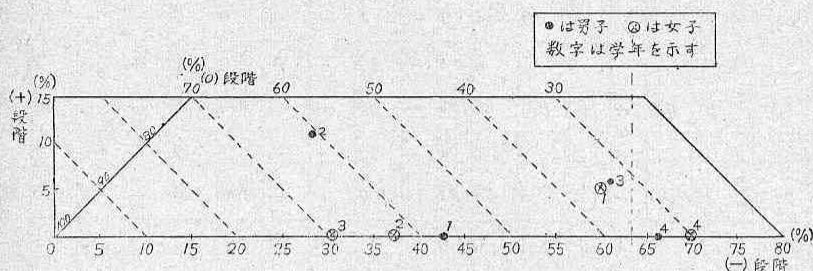
3年(8才)						4年(9才)					5年(10才)				6年(11才)			
-2	-1	0	1	2	計	-2	-1	0	1	計	-2	-1	0	計	-2	-1	0	計
5	2	2	0	—	9	0	1	0	—	1	—	—	0	0	—	—	1	1
88	40	33	0	—	50	0	14	0	—	8	—	—	0	0	—	—	50	50
1	3	4	1	—	9	1	6	4	—	11	—	—	2	2	—	—	1	1
17	60	67	100	—	50	100	88	100	—	92	—	—	100	100	—	—	50	50
6	5	6	1	—	18	1	7	4	—	12	—	—	2	2	—	—	2	2
33	28	33	6	—	100	8	58	33	—	100	—	—	100	100	—	—	100	100
—	8	8	—	0	16	1	0	0	—	1	1	1	—	2	2	0	1	3
—	80	38	—	0	50	50	0	0	—	8	100	33	—	50	100	0	50	60
—	2	13	—	1	16	1	7	4	—	12	0	2	—	2	0	1	1	2
—	20	62	—	100	50	50	100	100	—	92	0	67	—	50	0	100	50	40
—	10	21	—	1	32	2	7	4	—	13	1	3	—	4	2	1	2	5
—	31	66	—	3	100	15	54	31	—	100	25	75	—	100	40	20	40	100

栄養要注意との関係

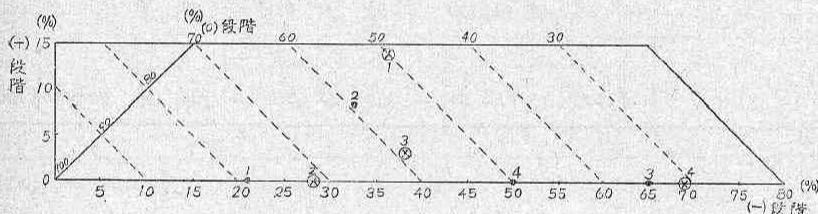
3 年(8才)					4 年(9才)				5 年(10才)				6 年(11才)			
-2	-1	0	1	計	-2	-1	0	計	-2	-1	0	計	-2	-1	計	
3 75	4 57	2 33	—	9 50	1 100	0	0	1 8	—	0 0	0 0	0 0	—	1 100	1 100	
1 25	3 43	4 67	—	8 50	0 0	5 100	6 100	11 92	—	1 100	1 100	2 100	—	0 0	0 0	
4 24	7 41	6 35	—	17 100	1 8	5 42	6 50	12 100	—	1 50	1 50	2 100	—	1 100	1 100	
1 100	8 73	7 37	0 0	16 50	1 50	0 0	0 0	1 8	2 67	—	0 0	2 50	2 100	1 33	3 60	
0 0	3 27	12 63	1 100	16 50	1 50	7 100	4 100	12 92	1 33	—	1 100	2 50	0 0	2 67	2 40	
1 3	11 35	19 60	1 3	32 100	2 15	7 54	4 31	13 100	3 75	—	1 25	4 100	2 40	3 60	5 100	

まず、各学年の身長別体重段階、および身長別胸囲段階の分布をこの表の計欄の(%)でみて(+)・(0)・(-)の三段階にまとめ三角図表をかくと5.9図・5.10図のようになる。ただし、5年・6年は人数が少ないので省略した。

5.9図 身体虚弱児童の身長別体重段階の分布を示す三角図



5.10図 身体虚弱児童の身長別胸囲段階の分布を示す三角図



これより、(+) 段階の者が極めて少なく、殆んど(0)・(-) 段階で占められていることがわかる。特に3年・4年の男子および4年の女子には身長にくらべて体重と胸囲の少い者が極めて多い。

つぎに、5.25表により1年より4年までについて栄養要注意者の割合をみると、男子では、1年が69%，2年が57%，3年が50%，4年が8%とたり女子では、1年が100%，2年が68%，3年が50%，4年が8%となる。これらの栄養要注意児童は、身長別体重段階および胸囲段階の各段階にちらばっている。たとえば、身長別体重段階についてみると、男子の1年では(-2) 段階の者3人中3人が栄養要注意者で100%，(-1) 段階では5人中5人で100%，0段階では11人中5人で45%というようになる。身長別各体重段階および身長別各胸囲段階にちらばっている栄養要注意児童の各段階へのちらばり方には様々な型がみられる。たとえば、5.25表についてみると、3年男子のように、身

長別体重段階が(+1)・(0)・(-1)・(-2)となるに従って、栄養要注意者の含まれる率が0%・33%・40%・83%と次第に大きくなるもの、2年男子のように%の大小が不規則のもの、1年女子のようにすべて100%のもの、と大体このような三つの型がみられる。身長別胸囲段階についても同様である。

このうち、どのような型が最も多くあらわれるかは、人数が少いので明らかでないが、概観すると身長別段階が低くなるに従ってそこに含まれる栄養要注意者の割合が次第に多くたってくる型が多いようである。

5.4.4. 個々の児童の発育事例

ここでは、この調査の結果だけからみられたつぎのような児童の発育事例についてのべる。(1)疲労し易い児童、(2)結核所見の児童、(3)肋膜炎を患った児童。

(1) 疲労し易い児童

疲労し易い児童又は過去においてそのような状態になったことのある児童は5.21表によると、3年男子に1名、4年女子に1名いる。このうち3年生の方は疲労し易かったのは1年のときだけでその後はなおっている。4年生の方は現在疲労し易い状態にある子供である。ここでは、一応この資料から以上二人の事例についてのべる。

S 児 の 事 例 (女子、9才)

主な病気とその他の状況および身体発育はつぎの通りである。

5.27 表 S 児 の 発 育 事 例

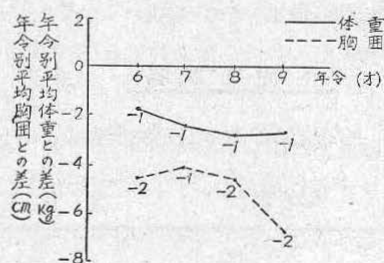
病 気 そ の 他	入学前の 主な病気	入 学 後 の 状 況					
		年齢	主な病気、様子	病欠日数	栄養要注意	回虫保有	その他
肺 炎		6	風邪ひき易い	5日	否	なし	
		7	疲 れ 易 い	1	"	"	
		8	"	"	"	"	
		9	"	—	"	"	

身 体 発 育	年 齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	1 年 間 の 発 育 増 加 量			身長別平均体重 及び平均胸囲 との差		身長別体重段 階及び胸囲段 階	
					身長	体重	胸囲	体重	胸囲	体重	胸囲
身 体 発 育	6	104.9	14.6	49.0				-1.8	-4.6	-1	-2
	7	110.2	16.0	51.3	5.3	1.4	2.3	-2.4	-4.1	-1	-1
	8	116.6	18.1	53.0	5.8	2.1	1.7	-2.8	-4.6	-1	-2
	9	121.2	20.5	53.0	5.2	2.4	0	-2.7	-6.6	-1	-2

この児童は入学前に肺炎を患った。1年のときは風邪をひき易く、2年以後は疲れ易い。病欠日数は3年のときが最も多く11日、栄養要注意者でない。回虫は保有していない。身体発育をみるに、身長の段階は1年より4年まで繪て(-1)段階で小さい方である。身長別体重の段階をみるとすべて(-1)段階で身長にくらべて体重は少ない方。身長別胸囲の段階をみると2年のときが(-1)段階で、その他はすべて(-2)段階になっていて、身長にくらべて胸囲が極めて少い。つぎに、累年の発育増加量をみると、特に2年～3年および3年～4年において胸囲ののびの少いことがわかる。直接比較はむりかと思うが5.7表の都市部普通児の平均発育増加量とくらべても胸囲ののびの少いことが明らかである。また、身長別平均体重および平均胸囲との差の分布をみると、

体重は-1.8・-2.4・-2.8-2.7となつてこの段階では5.3.5.節に例示したものの中でC型、胸囲はA型の傾向を示している。図示すると5.11図のようになる。この図で-1・-2等は身長別体重および胸囲の段階を示す。

5.11図 S児の体重および胸囲の身長別平均体重および平均胸囲との差の年齢による変化



T 児 の 事 例 (男子, 8才)

この児童は入学前に小児ぜんそくをやっている、1年のとき疲労し易かったがそれ以後は回復している。1・2・3年ともに栄養要注意である。身長は1年から3年まですべて標準段階で普通の子供である。身長別体重の段

5.29 表

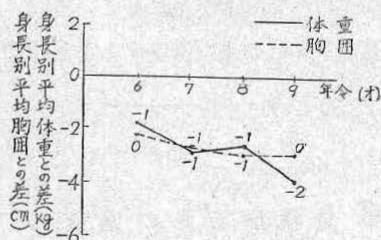
U 児 の 発 育 事 例

病 気 そ の 他	入学前の 主な病気		入 学 後 の 状 況				
	年齢	主な病気, 様子	病欠日数	栄養要注意	回虫保有	その他	
な し	6	な し	0日	否	なし		
	7	"	0	"	"		
	8	結 核 所 見	5	"	"		
	9	"	／	"	"		

身 体 発 育	年齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	1 年 間 の 発 育 増 加 量			身長別平均体重 重及び平均胸 囲との 差		身長別体重段 階及び胸囲段 階	
					身長	体重	胸囲	体重	胸囲	体重	胸囲
6	115.6	18.4	55.6	5.7	1.6	1.4	-1.8	-2.1	-1	0-	
7	121.3	20.0	57.0	4.9	2.3	2.0	-2.8	-2.7	-1	-1	
8	126.2	22.3	59.0	5.3	1.4	2.3	-2.6	-2.8	-1	-1	
9	131.5	23.7	61.3				-4.0	-2.9	-2	0-	

なり大きくひらいている。胸囲も身長にくらべてやや小さい方。体重のび方の減少が結核所見と関係しているかどうかはこれだけの資料からはわからない。体重の発育にはいわゆるA型(5.3.5節)を示す傾向がみられる。身長別平均との差を図示すると5.13図のようになる。

5.13図 U児の体重および胸囲の身長別平均体重および平均胸囲との差の年齢による変化



(3) 肋膜炎を患った児童

ここでは、肋膜炎を患ったことのある6年女子Kの事例についてのべる。

K児は入学前は特別の病気をしていない。8才のとき気管枝炎を患い、10才のとき右湿性肋膜炎を患っている。病欠は1年のときから多い方。特に肋膜炎を患ったときはそのための欠席が多い。8才から栄養要注意になっている。年齢別標準表によると身長は各年齢ともに(-1)段階にあるから小さい方である。身長にくらべて体重や胸囲の段階をみると6才~8才までがすべて(-1)

5.30 表

K 児 の 発 育 事 例

病 気 そ の 他	入学前の 主な病気	入 学 後 の 状 況					
		年齢	主な病気、様子	病欠日数	栄養要注意	回虫保有	その他
		6	な し	36日	否	なし	
		7	"	14	"	"	
		8	気 管 枝 炎	32	要 注 意	"	
		9	な し	5	"	"	
		10	右湿性肋膜炎	64	"	"	
		11	な し	／	"	"	

身 体 発 育	年齢	身 長 (cm)	体 重 (kg)	胸 囲 (cm)	1 年 間 の 発 育 増 加 量			身長別平均体重 重及び平均胸 囲との差		身長別体重段 階及び胸囲段 階	
					身長	体重	胸囲	体重	胸囲	体重	胸囲
	6	101.8	13.7	48.2	4.8	1.6	2.3	-2.0	-4.8	-1	-1
	7	106.6	15.3	50.5	5.4	1.5	2.7	-1.8	-3.9	-1	-1
	8	112.0	16.8	53.2	5.3	1.0	0.1	-2.7	-3.7	-1	-1
	9	117.3	17.8	53.3	5.0	2.3	1.7	-3.5	-5.1	-2	-2
	10	122.3	20.1	55.0	5.3	1.9	1.3	-4.3	-5.9	-2	-2
	11	127.6	22.0	56.3				-4.5	-6.7	-2	-2

段階で少い方。9才～11才まではいずれも（-2）段階で極めて小，すなわち身長にくらべて，体重や胸囲が極めて不足してきている。身長別平均体重や平均胸囲との差をみると，体重は，-2.0，-1.8，-2.7，-3.5，-4.3，-4.5胸囲は，-4.8，-3.9，-3.7，-5.1，-5.9，-6.7となりいずれも年齢とともにそのび方が少くなっている。

すなわち，前の例でいえばA型を示しており，特に肋膜炎を患った9才からの減少が大きい。身長別平均との差を図示すると5.14図のようになる。このような児童については十分留意していくことが必要であろう。

5.14図 K児の体重および胸囲の身長別平均体重および平均胸囲との差の年齢による変化

